

平成12年度埋蔵文化財  
発掘調査報告書

2 0 0 1

新潟市教育委員会  
新 潟 市

## 例 言

- 1 本書は平成12（2000）年度に新潟市（以下「市」）内で実施した発掘調査の報告書である。ただし、Ⅱ章でふれる松山遺跡範囲確認調査については平成11（1999）年度に実施したものであるが、編集の都合上本書に収録することとなった。
- 2 調査は国庫及び県費の補助金交付を受けて、市教育委員会（以下「市教委」）が主体となり市埋蔵文化財センター（以下「埋文センター」）が主管した。
- 3 調査で得た資料は、埋文センターが保管している。
- 4 引用・参考文献は巻末に掲げた。
- 5 本書の内容については各調査担当が協議し、執筆は廣野が担当した。
- 6 本書に掲載されている図版は、埋文センター臨時職員の協力を得て、廣野が作成した。
- 7 本書に掲載されている写真は、各調査の担当者及び調査員が撮影した。
- 8 本書で面積について記載した部分では、0.1㎡未満を四捨五入して表示している。従って、新潟県教育委員会（以下「県教委」）等に報告した数値とは一致しないものもある。
- 9 調査から本書の作成に至るまで、多くの方々・機関から御指導・御協力をいただいた。

## 目 次

I 平成12（2000）年度 市内遺跡発掘調査等の概要	1
II 松山遺跡範囲確認調査	4
III 明訓高校移転予定地試掘調査	6
IV 東田遺跡発掘調査	10
V 卸売市場建設予定地試掘調査	12
VI 赤塚神明社遺跡範囲確認調査	14
VII 猿ヶ馬場A遺跡範囲確認調査	16
VIII 丸山遺跡範囲確認調査	18
IX 海老ヶ瀬地区試掘調査	20
X 清水が丘遺跡範囲確認調査	22
XI 溜池遺跡範囲確認調査	24
XII 姥ヶ山地区試掘調査	26
XIII 内野西土地区画整理事業関連試掘・確認調査	28
引用・参考文献	33
報告書抄録	34

# I 平成12（2000）年度 市内遺跡発掘調査等の概要

## 1 調査体制

**事務分掌** 昨年度に引き続き、埋蔵文化財保護に係る業務全般（開発事業に係る遺跡の扱いについての協議、試掘・確認調査、工事立会い、本格調査とそれに伴う出土遺物の整理作業と報告書作成、公開・普及活動等）については埋文センターで担当した。ただし、遺跡に係る各種照会については、利用者の便宜を考慮し、市総務局国際文化部歴史文化課（以下「歴史課」）企画・文化財係に窓口をおいた。

平成12（2000）年度の調査体制については以下のとおり。

調査主体 市教委（教育長 石崎海夫） 市が補助執行（担当 歴史課及び埋文センター）

事 務 各種照会への対応 歴史課企画・文化財係（係長 勝本紀夫）

調査関係 埋文センター（所長 細川 力）

調 査 員 廣野耕造・諫山えりか・朝岡政康（以上埋文センター主事）

## 2 市内遺跡調査の概要（図1及び表1・2参照）

**調査件数** 今年度の遺跡関連の調査としては、本格調査1件、試掘・確認調査10件、立会い調査4件の計15件を実施した。このうち、本格調査と試掘・確認調査についてⅡ章以下で述べる。なお、市は平成13（2001）年1月1日をもって新潟県西蒲原郡黒埼町と合併したが、合併以前に黒埼町教育委員会が行った各種調査については本書ではふれていない。

**本格調査** 東田遺跡の発掘調査を実施した。平成12（2000）年度は発掘調査のうち現場作業を完了し、平成13（2001）年度と平成14（2002）年度に整理作業を実施、整理作業の最終年度に正式な報告書を刊行予定である。

**試掘・確認調査** 例年に比べ原因事業の予定面積が大きいものが多かった。いずれの調査においても開発事業の大幅な見直しを必要とするような結果は得られなかった。

**立会い調査** 下水道建設等に伴い工事立会いを実施したが、遺跡の破壊はみられなかった。

記載	遺跡名等（新潟市遺跡番号）	調査の種類	原因	調査期間	調査結果・取り扱い
Ⅱ章	松山遺跡(110)	確認調査	個人住宅建設	H12.3/17	遺構・遺物検出されず、慎重工事
-	木山遺跡(42)・茨曾根遺跡(57)・尼池遺跡(59)	立会い調査	下水道建設	4/6・4/16・5/18・5/24	遺跡の破壊は認められない
Ⅲ章	明訓高校移転予定地(-)	試掘調査	学校建築	4/17～20・24～27	遺跡とは認められない
Ⅳ章	東田遺跡(114)	本格調査	市道建設	4/25～12/22	本文参照
Ⅴ章	卸売市場建設予定地(-)	試掘調査	市場建設	6/13～15	遺跡とは認められない
Ⅵ章	赤塚神明社遺跡(27)	確認調査	冷蔵倉庫建設	6/15	遺構・遺物検出されず
Ⅶ章	猿ヶ馬場A遺跡(15)	確認調査	事務所建設	6/22	遺構・遺物検出されず、慎重工事
-	大淵遺跡(16)	立会い調査	ガス関連施設建設	6/26・8/1	遺跡に影響なし
Ⅷ章	丸山遺跡(13)	確認調査	個人住宅建設	7/6	遺構・遺物検出されず
Ⅸ章	海老ヶ瀬地区(-)	試掘調査	自動車学校建設	8/8・9	遺跡とは認められない
X章	清水が丘遺跡(91)	確認調査	個人住宅建設	8/23	遺構・遺物検出されず、慎重工事
XI章	溜池遺跡(36)	確認調査	店舗建設	8/24～30	遺跡に影響なく、慎重工事
XII章	姥ヶ山地区(-)	試掘調査	店舗建設	10/25～11/2	遺跡とは認められない
-	岡山の石仏(109)	立会い調査	住宅建設	10/27	遺跡に影響なし
-	高山遺跡(52)	立会い調査	下水道建設	H13. 1/26	遺跡に影響なし
XIII章	内野湯端B遺跡(101)	確認調査等	土地区画整理	2/21～23・26	遺構・遺物検出されず

表1 平成12（2000）年度 市内遺跡調査一覧（実施順）



## Ⅱ まつやま 松山遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市松山字道下1571-4ほか

調査期間：平成12年3月17日(金)

調査面積：調査対象面積303.2㎡ 調査面積21.6㎡（調査対象面積の約4.3%）

調査担当：廣野耕造

### 1 遺跡の概要

**立地ほか** 松山遺跡は亀田砂丘（阿賀野川以東の新砂丘Ⅰ-3列に対比される）後列の頂部付近に立地している。遺跡周辺から中近世の遺物が採集されることは従前から知られており（新潟市合併町村史編集室1986）、酒井和男氏によって中近世の採集資料が報告されている（酒井・坂井ほか1987）。畠山佑二氏のコレクション（豊栄市博物館所蔵）中の縄文土器は、松山遺跡のものである可能性がある（関1988）。

**主な既往の調査** 平成10（1998）年、個人住宅建設に伴う立会い調査を別地点で2回実施しているが、いずれも遺跡の範囲外と判断されている（朝岡1999）。

### 2 調査に至る経緯

**協議** 個人住宅建設に係る照会があり、これに対して市は当該地が松山遺跡から100m以内にあり、地形的にも連続しているため隣接地と判断、法57条の2に係る届出の提出を依頼した。また、事業者側からも埋蔵文化財の所在状況の調査依頼が市教委に提出されている（平成12年3月16日付け）。

**届出など** 事業者より発掘届が提出され（平成12年3月3日付け）、それに対して遺跡の範囲が不明確なので確認調査を実施せよとの通知が県教委から市教委にあった（平成12年3月9日付け）ため、市教委は法58条の2にかかる発掘調査の報告を県教委に送付（平成12年3月16日付け）、調査に着手した。

### 3 調査の経過

**調査方法** 住宅建設に支障を来さないため、建物の基礎部分にかからないように試掘坑を2本設定した（図3）。試掘坑1Tは0.5m×5.3m、2Tは0.5m×4.7mである。調査地が狭いため、小型のバックホー（0.1m級）を用いて一回に10～20cmずつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が出るまで、または現地表面下1.5mまでとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。



図2 調査地周辺図（S=1/3,000）

**調査結果** 土層については、確認できた最下底の黒褐色土の上に、各種の砂質土が堆積するという状況であった（図4）。砂質土はしまりがなく、後世に盛られたものである可能性がある。

遺物は砂質土中から近世陶器が2点出土した。遺構は一切検出されなかった。

**調査後の措置** 松山遺跡は中世の遺跡として周知化されているが、今回の調査では該当するものが検出されなかったため、当該地は遺跡の範囲外であるとの判断を、市教委から県教委に報告した（平成12年3月21日付け）。それを受け、県教委から事業者宛に工事にあたっては慎重に実施するよう、書面で通知された（平成12年5月1日付け）。

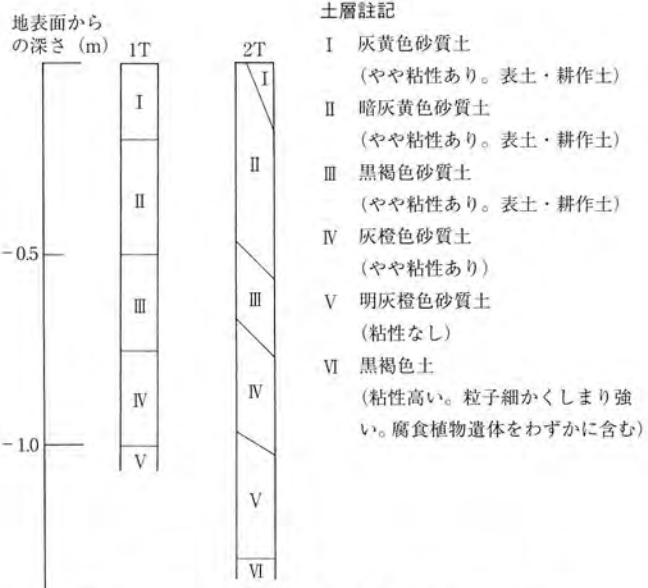
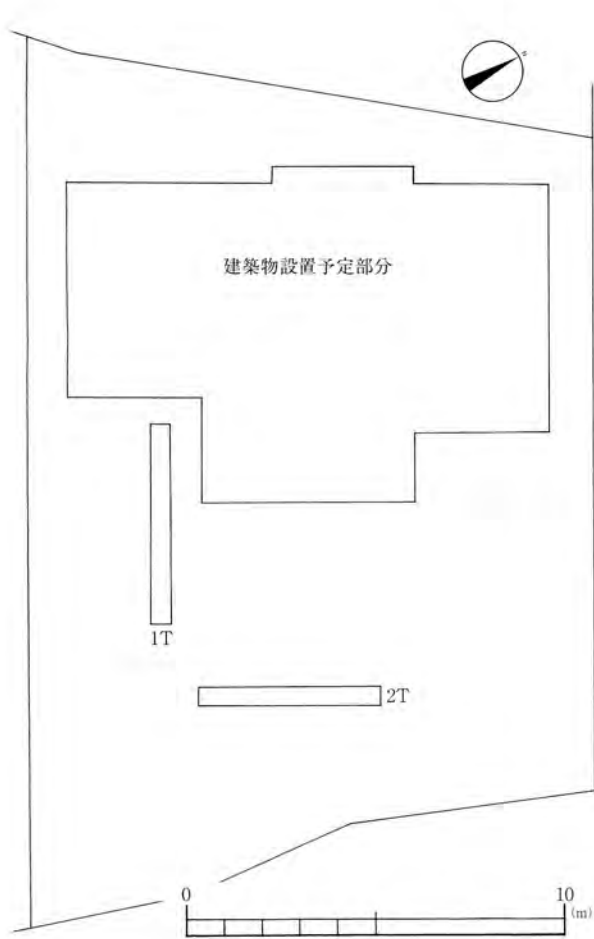


図4 土層柱状図 (深度方向のみ S=1/20)

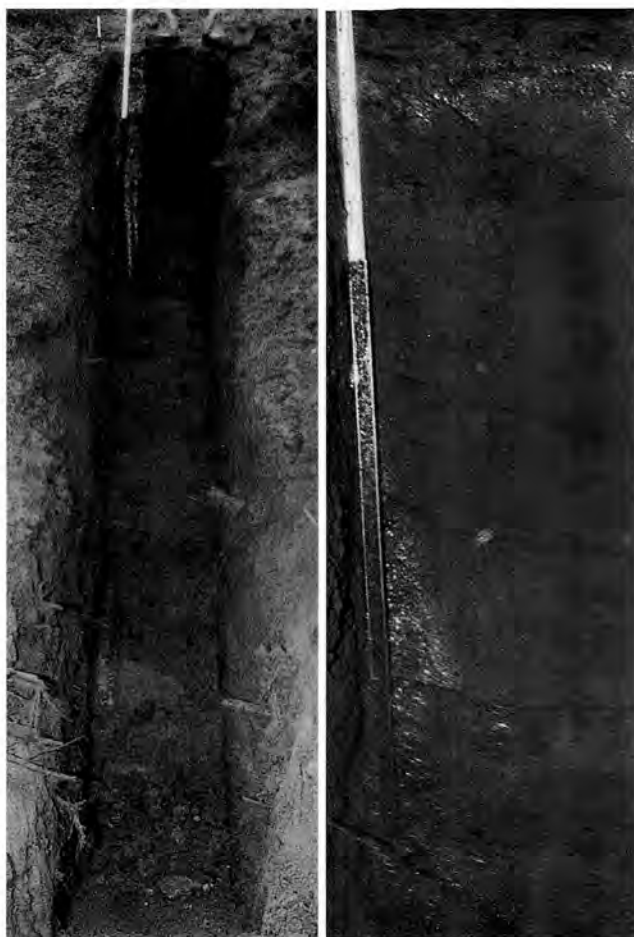
図3 試掘坑配置図 (S=1/200)



調査地遠景 (南東から)



調査地全景 (南東から)



2T 調査終了状況

2T 土層堆積状況

### Ⅲ <sup>めいくん</sup>明訓高校移転予定地試掘調査

調査地：新潟市北山字堀東1037-2ほか

調査期間：4月17日(月)～20日(金)・24日(月)～27日(木)

調査面積：調査対象面積80,303.0㎡ 調査面積550.0㎡ (調査対象面積の約0.7%)

調査担当：廣野耕造

#### 1 調査地の概要

**立地ほか** 調査地は市の海岸線から内陸へ約8km入ったところに立地している。多くの遺跡が集中することで知られる亀田砂丘(新砂丘Ⅰ)から北西に約0.8km、新砂丘ⅠとⅡとの間に位置し、平成11(1999)年に新発見された東囲遺跡からは西へ約2km離れている。現況は水田で、現地表面の標高は最も低いところで約-0.8mを測る。周知の遺跡は存在しないが、立地から見て未発見の遺跡が地下深く埋没している可能性もあると考えられた。

#### 2 調査に至る経緯

**協議** 現在新潟市川岸町に所在する学校法人新潟明訓高等学校(以下「明訓高」)は、平成14(2002)年度を期して同市内北山に移転することとなった。そこで明訓高と市とで移転予定地(以下「予定地」)内の埋蔵文化財の所在とその取り扱い等について平成11(1999)年度中より協議した結果、予定地が広大なこともあり、万一未発見の遺跡が存在した場合、事業の進展に重大な影響を与えることが予想されたため、事前に試掘調査を行って遺跡の有無を確認することで合意した。

**届出など** 明訓高理事長からの調査依頼書(平成12年4月3日付け)を受け、市教委は県教委に法第58条の2に基づく発掘調査の通知を提出(平成12年4月11日付け)し、試掘調査を実施することとなった。

#### 3 調査の経過

**調査方法** 調査対象面積がかなり広いため、開発予定や地形を勘案して、試掘坑の設定に粗密のメリハリをつけ、調査の効率化を図った。特に、遺跡が発見された場合に問題となりそうな建物部分については密に試掘坑を設定した(図6)。試掘坑の掘削は地元土木業者に委託し、調査補助のための作業員として地元有志4名を新潟市臨時職員として雇用了。掘削にあたっては0.4㎡級のバックホーを使用し、一回に10～20cmずつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。壁面が崩落する危険を避けるため、掘り下げ深度は基盤層が露出するまで、ないし地表面から2mまでを限度とした。掘り下げ終了後、人力での精査を実施、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

**調査結果** 調査地の土層堆積状況は、黑色砂層(Ⅳ層)を基盤とし、その上に粘土層(Ⅱ～Ⅴ層)、表土・耕作土が堆積するという形であった(図7)。現地表面から基盤砂層までは浅いところ(調査範囲の南端部付近)でも1.6m以上あり、ほとんどの試掘坑では基盤層まで到達でき



図5 調査地周辺図 (S=1/10,000)

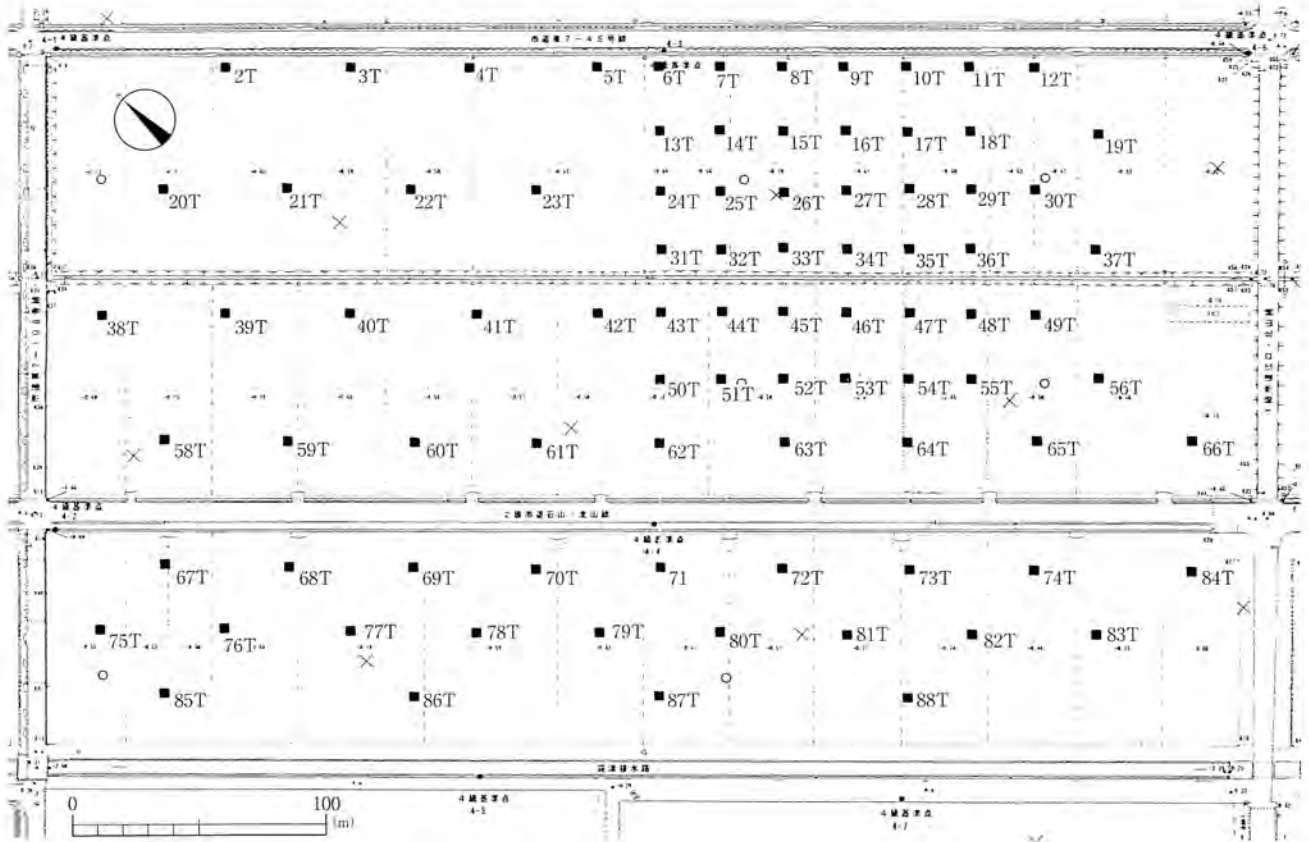


図6 試掘坑配置図 (S=1/3,000)

仮0 (1T地表面)  
からの深さ (m)

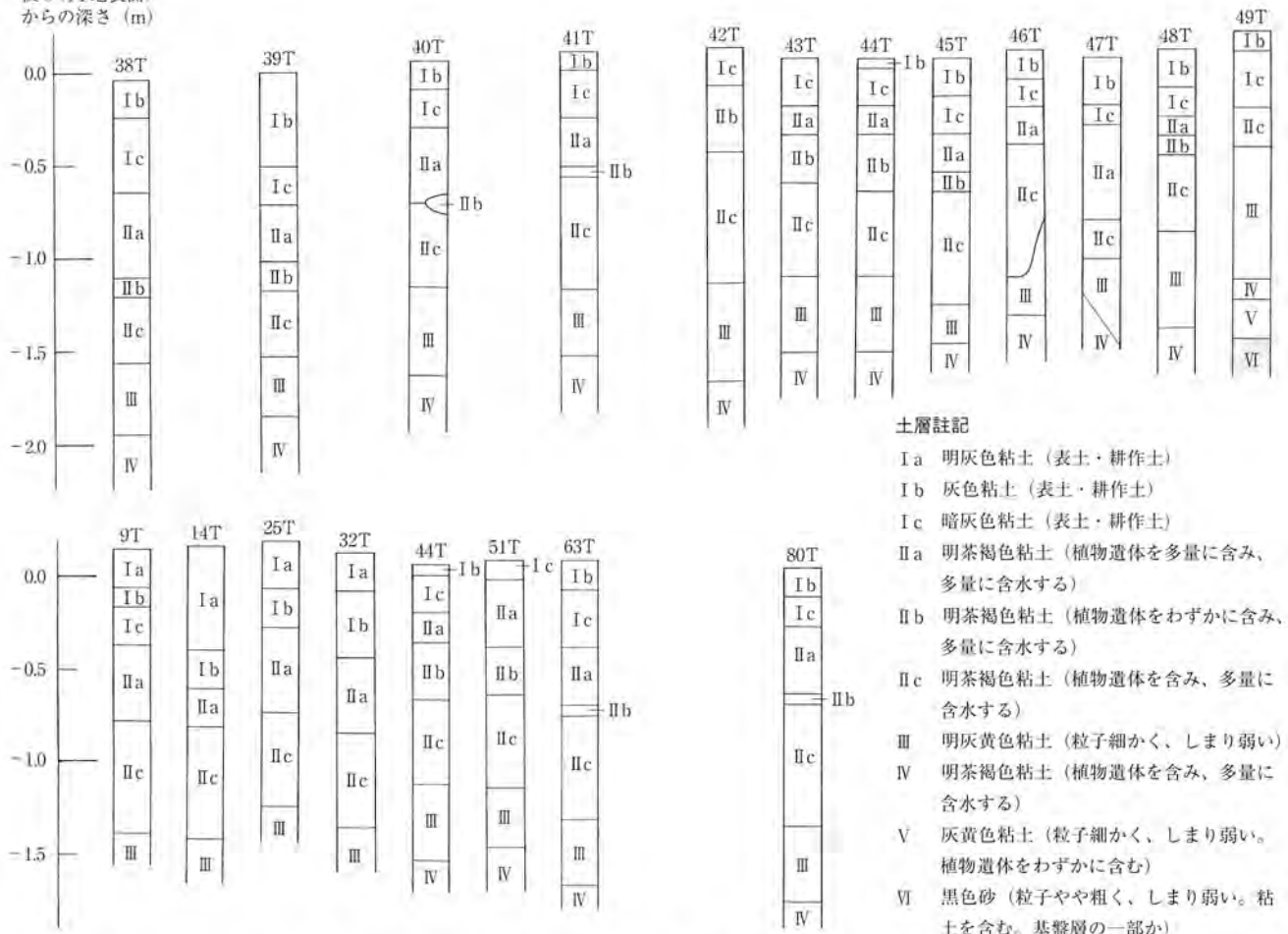


図7 土層柱状図 (上段:北西~南東方向、下段:北東~南西方向 深度方向はS=1/40、水平方向はS=1/2,000)



なかった。

遺構は一切検出されなかった。遺物については、試掘坑13TのI b層から土器（縄文土器と推定されるが遺存状態不良で詳細は不明）の小片、また試掘坑30TのI b層から漆器碗が出土している。いずれも表土・耕作土中であるため原位置を保っているとは考えられない。

**調査後の措置** 事実上全ての試掘坑で遺構・遺物は検出されず、今回の調査範囲に関して遺跡の存在は想定できないとの所見を、市教委から県教委に報告した（平成12年5月10日付け）。



調査地全景（北西から）



38T 調査終了状況



38T 土層堆積状況



44T 調査終了状況



44T 土層堆積状況

明訓高校移転予定地試掘調査写真(1)



49T 調査終了状況



49T 土層堆積状況



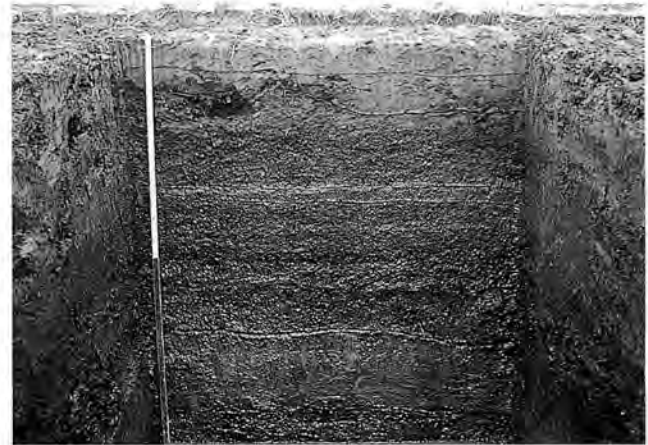
14T 調査終了状況



14T 土層堆積状況



80T 調査終了状況



80T 土層堆積状況



30T 遺物（漆器椀）出土状況①



30T 遺物（漆器椀）出土状況②

明訓高校移転予定地試掘調査写真(2)

## IV 東冨遺跡発掘調査

調査地：新潟市茗荷谷地内

調査期間：4月25日(火)～12月22日(金) 155日間

調査面積：8,875.0㎡（遺跡推定面積の約22.0%）

調査担当：朝岡政康

調査員：廣野耕造（6月21日まで）・諫山えりか（6月22日より）

### 1 遺跡の概要

**立地ほか** 東冨遺跡は、新卸売市場整備事業（担当：市産業経済局農林水産部市場整備推進課）に先立ち、平成11（1999）年6月に埋文センターが実施した試掘調査で新発見された遺跡である（平成11年11月26日付けで県教委に通知）。新砂丘Ⅱ（石山砂丘）とⅠ（亀田砂丘）の間に立地し、古墳時代の遺構確認面の絶対高は-0.8mから-0.4mである。当該地の基盤層は砂であるが、砂丘上に立地する遺跡と考えるとよいか今後検討を要する。

**主な既往の調査** 試掘調査によって遺跡が発見された後、引き続いて実施した範囲確認調査により、遺跡面積は約40,000㎡と推定された。出土遺物は古墳時代前期に属する土師器等が中心で、わずかに時期不明の縄文土器もみられた。遺構としては竪穴住居跡1基その他が検出されている。なお、試掘・確認調査の概要については既に報告済みである（朝岡2000）。

### 2 調査に至る経緯

**協議** 遺跡発見を受け、歴史課と埋文センター及び市場整備推進課の3者は、県教委の助言を得ながら、遺跡保護について再三にわたり協議した。その結果、遺跡が市場本体にかかる部分については地下に影響を与える構造物の設置を避け、盛土によって遺跡を現況のまま保存することとなった。しかし、遺跡のほぼ中央部分を縦断するかたちで計画されている市道（都市計画道路東8-273号線）は都市計画法に基づくものであるため、法線の変更は事実上不可能であった。従って、これにかかる部分については平成12（2000）年度、工事に先だって本格調査を実施し、調査記録を残すこととした。調査地の位置については12、13頁の図9、10を参考のこと。調査費用については原因者である新潟市が負担するべく市道建設担当課（市都市整備局土木部土木建設課）の予算として計上し、発掘調査を担当する埋文センターに執行委任することとなった。

**届出など** 市教委は文化財保護法（以下「法」）第57条の3に係る埋蔵文化財発掘通知及び法第58条の2に係る埋蔵文化財発掘調査報告を県教委に提出した（いずれも平成12年6月5日付け）。

その後、12月22日に発掘調査の現場作業が終了したので、市教委は発掘調査の終了報告を県教委に提出した（平成13年1月18日付け）。また、出土遺物に関しては法第59条第2項により準用する第59条第1項に係る遺物発見通知を新潟県警南警察署長に提出（平成13年1月22日付け）、平成13年1月24日付けで受理されている。

### 3 調査の経過

**調査方法** 市道の形状に合わせて25.0m×355.0mの調査区とし、100m大大グリッド・10m大グリッド・2m小グリッドを基本に、国家座標を用いて調査区内の位置を明示した。詳細は正式報告でふれることとする。

**調査結果** 遺構は、古墳時代前期に属する竪穴住居が2、掘立柱建物が2、土坑が12、ピットが200以上、その他性格不明の遺構が40、それぞれ検出されている（図8）。遺物は、少量の縄文土器・弥生土器の他は、古墳時代前期の土師器、木製品、鉄滓、石製品、黒色化した大量の米、種実類が出土している。

**その他** 平成12年度、歴史課の事業として計画された「歴史文化ふれあい事業」による「にいがた歴史塾」の一環として、埋文センターでは東冨遺跡発掘調査期間中に現地説明会を2回開催した。内容は以下のとおりである。

- 第1回（8月4日） 出土遺物・写真パネルの展示、遺物水洗作業の体験、稼働中の発掘調査現場公開  
参加者約150名
- 第2回（11月11日） 出土遺物・写真パネルの展示、遺構の公開  
参加者約160名

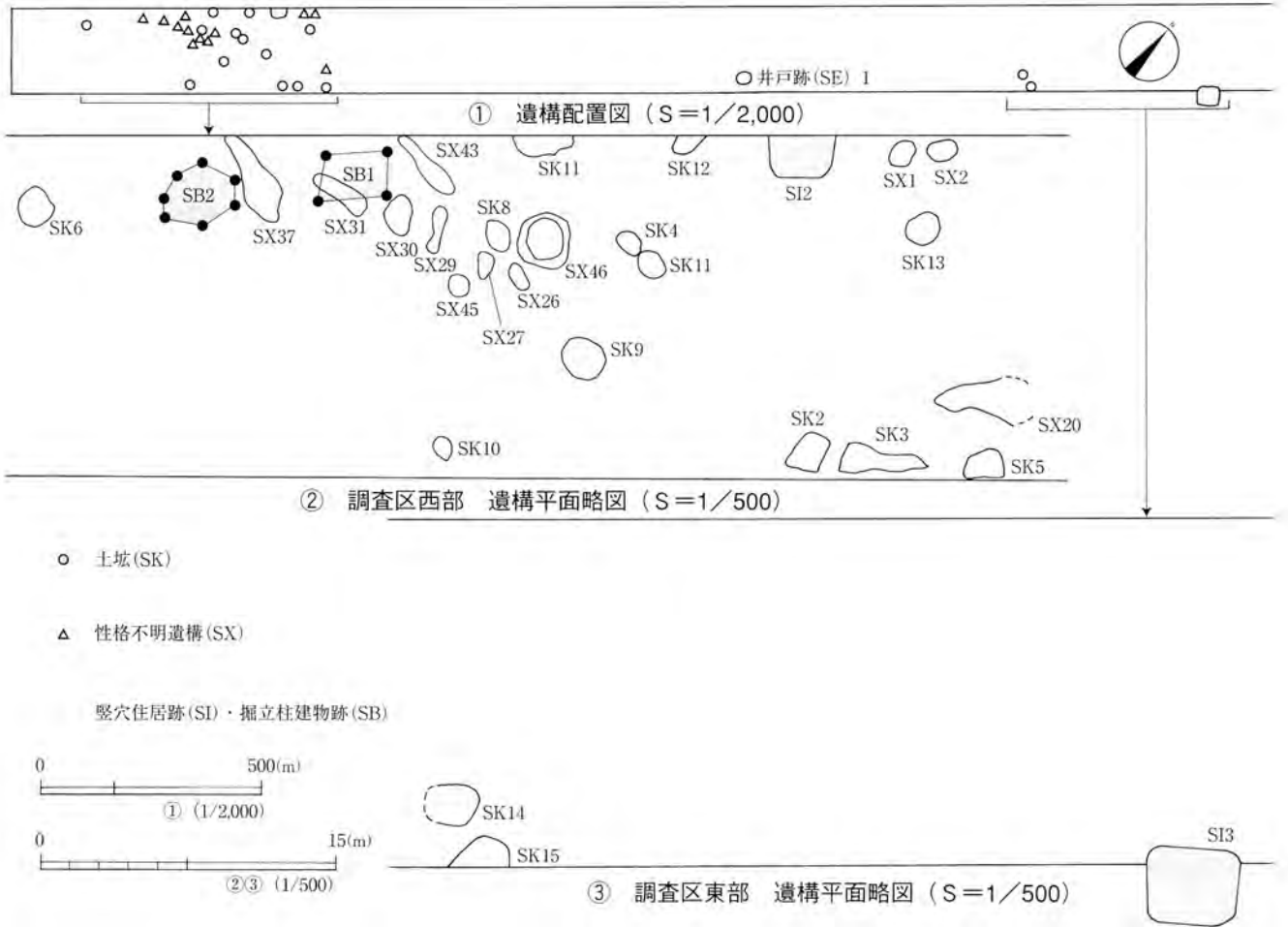
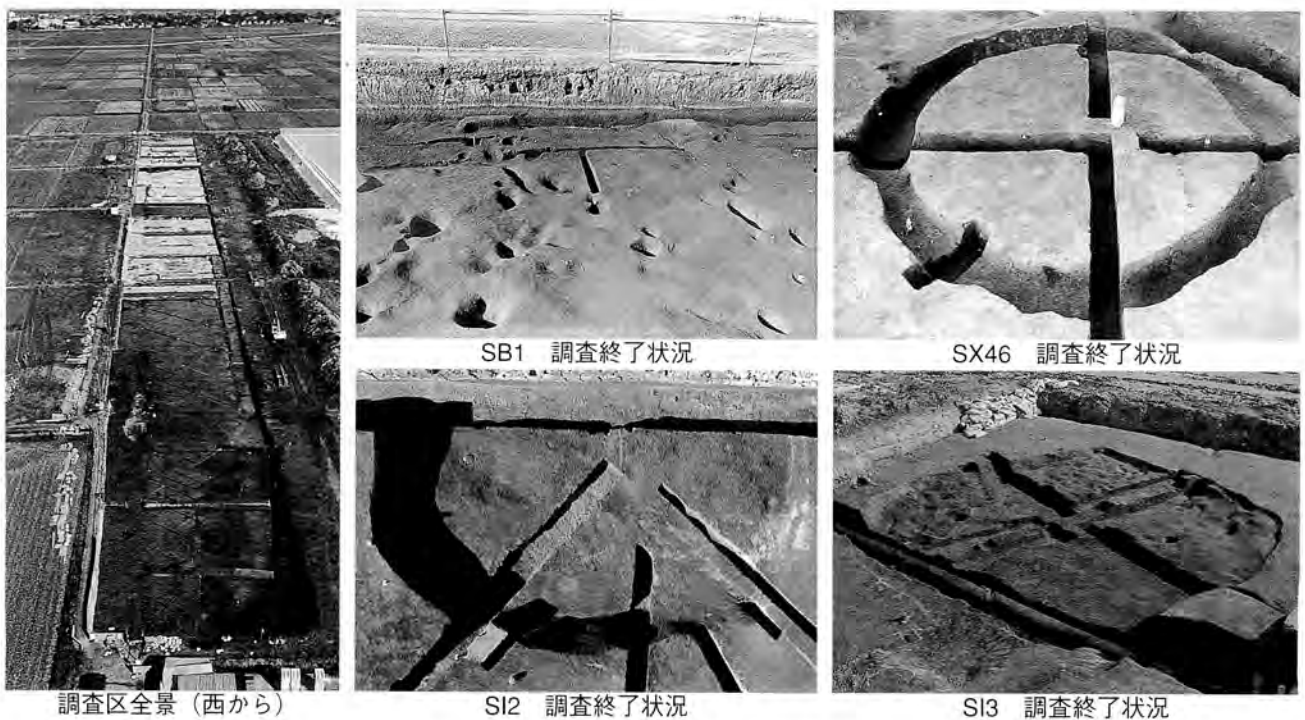


図8 東田遺跡 遺構平面図(概略)



## V 卸売市場建設予定地試掘調査

調査地：新潟市丸山の内善之丞組字浦郷673-2・同634、西山字荒田830ほか

調査期間：6月13日(火)～15日(木)

調査面積：調査対象面積44,000.0㎡ 調査面積68.0㎡ (調査対象面積の約0.2%)

調査担当：廣野耕造

### 1 調査地の概要

**立地ほか** 調査地は2つの部分に分かれている。1つは卸売市場建設予定地で、茗荷谷の集落が立地する新砂丘I北側に隣接している。東囲遺跡推定範囲の南端部から南東方向へ約200m離れている。もう1つは市道建設予定地であり、東囲遺跡推定範囲西端部から南西方向へ約250m離れている。いずれも地形条件については東囲遺跡と同様である。

### 2 調査に至る経緯

**協議** II章でもふれたとおり、新卸売市場建設予定地については大部分を平成11(1999)年度中に試掘及び確認調査済であったが、同年度中に買収が完了しない部分については平成12(2000)年度に試掘調査を実施することとなっていた。

**届出など** 市教委は法58条の2に係る発掘調査の通知を県教委に提出(平成12年6月9日付け)し、試掘調査に着手した。

### 3 調査の経過

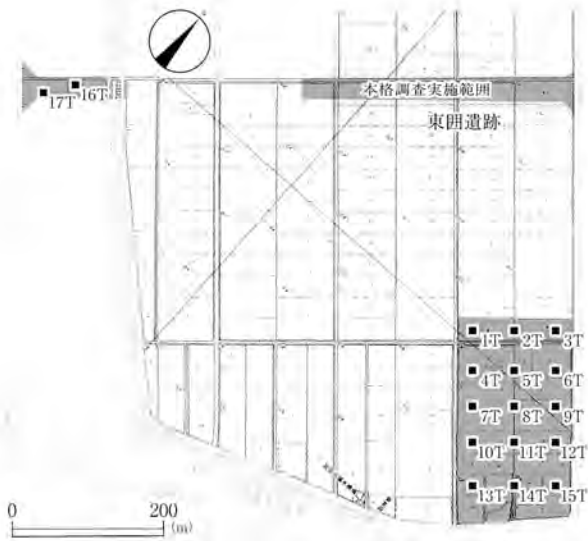
**調査方法** 通常の試掘調査方法にならない、事業実施予定範囲内に50mグリッドを基本として2.0m×2.0mの試掘坑を設定した(図10)。各試掘坑は0.4㎡級バックホーを使用し、一回に10～20cmずつ掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認に努めた。掘り下げ終了後は土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。

**調査結果** 土層堆積状況は図11のとおりである。基本的には平成11年度の調査による所見と同じであるが、基盤層の絶対高が南側の試掘坑ほど高くなっており、これは新砂丘Iの立ち上がりと考えられる。遺構・遺物は一切検出されなかった。

**調査後の措置** 試掘調査の結果、当該地に遺跡の存在は確認されなかったため、市場建設工事が着手された。

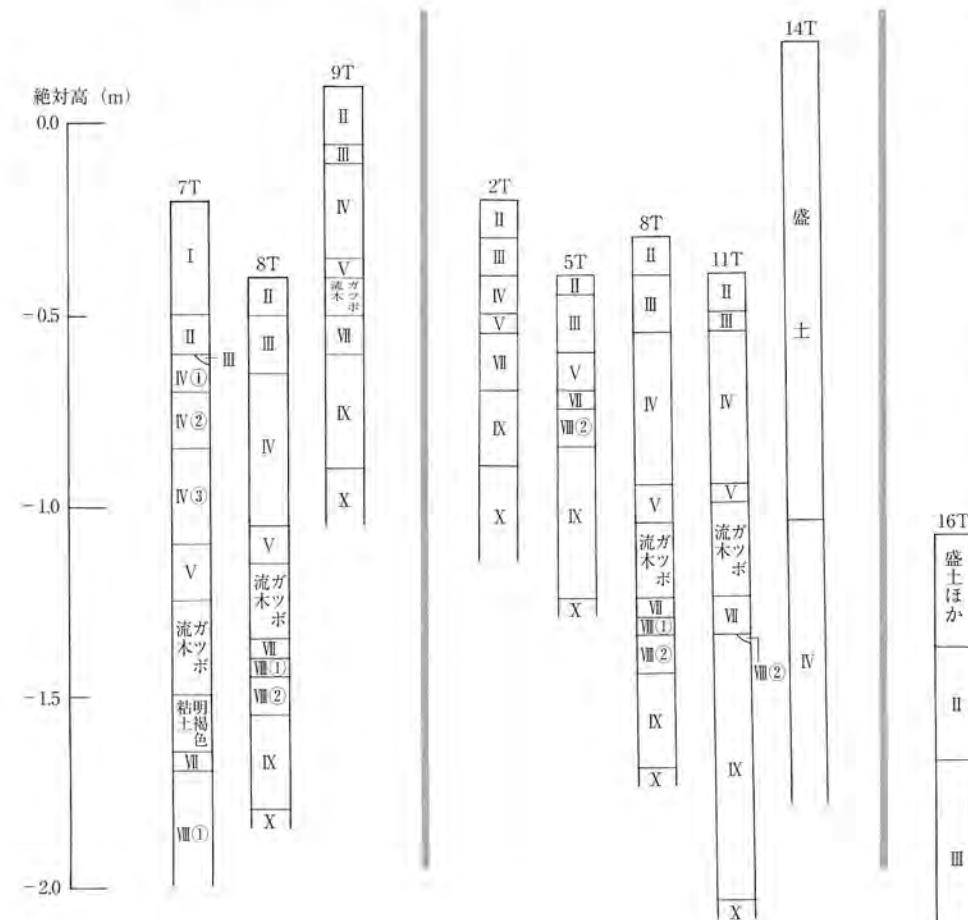


図9 調査地周辺図 (S=1/25,000)



調査地全景（西から）

図10 試掘坑配置図 (S=1/10,000)



土層註記

- I 暗褐色土 (水田耕土)
- II 褐色粘土 (水田耕土)
- III 灰褐色粘土 (腐食植物層。生木・腐食植物が混じる。いわゆるガツボ)
- IV① 暗褐色粘土 (腐食植物層。生木・流木・腐食植物が大半を占める。いわゆるガツボ)
- IV② 暗褐色粘土 (IV①層より腐食植物が少ない)
- IV③ 暗褐色粘土 (IV①層より腐食植物が多い)
- V 灰白色粘土
- VI 黒褐色粘質砂 (古墳時代前期の遺物包含層)
- VII 灰色粘土 (一部で砂が混じる)
- VIII① 暗褐色粘質砂 (粘土が少量混じる。腐食植物がやや混じる)
- VIII② オリーブ褐色砂 (VIII①層とIX層の漸移層)
- IX 黒色砂層
- X 黄灰色砂層



14T 土層堆積状況



2T 土層堆積状況



16T 土層堆積状況

図11 土層柱状図 (垂直方向はS=1/20、水平方向はS=1/5,000)

## VI あかつかしん めいしや 赤塚神明社遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市赤塚字下荒所6022番1

調査期間：6月15日(木)

調査面積：調査対象面積1,094.0㎡ 調査面積15.0㎡ (調査対象面積の約1.4%)

調査担当：諫山えりか

### 1 遺跡の概要

**立地ほか** 赤塚神明社遺跡は市の西方に位置する御手洗湯北岸の砂丘列（新砂丘Ⅱ－c列）上に立地する。昭和31（1956）年には山崎神明社遺跡という名前で、須恵器が出土することで知られていた（上原1956）。現在、神社の周囲にはコの字形を呈する空堀状の窪地がめぐっている。

**主な既往の調査** 文献に現れて以来、神社境内地を中心に分布調査が行われたが、遺物は採集されず遺跡の詳細については不明であった。昭和57（1982）年11月に至り、福祉施設建設に伴う試掘調査が境内地において市教委により実施されたが、遺物・遺構の検出はなく、当該地は遺跡の範囲とは認められなかった。

### 2 調査に至る経緯

**協議** 平成12（2000）年6月8日、市都市整備局都市計画部都市開発課より歴史課に対し、市内赤塚字下荒所における漬物工場建設について、遺跡の保護上問題がないか照会があった。建設予定地は赤塚神明社遺跡に近接しており、遺跡が広がっている可能性があったため、埋文センター職員が現地を踏査した。その結果、遺物は採集されなかったが、地形その他からみて範囲確認調査を実施するのが適当と判断し、事業者に対して法57条の2による届出の提出を依頼した。

**届出など** 事業者より提出された上記の届出（平成12年6月15日付け）とあわせて、市教委から法58条の2による発掘調査の報告を県教委に提出した（平成12年6月15日付け）。その後、県教委から市教委に対し、当該地において範囲確認調査を実施するようにとの通知があった（平成12年6月28日付け）。

### 3 調査の経過

**調査方法** 事業予定地全体をカバーするよう、任意の5ヶ所に1.5m×2.0mの試掘坑を配置した（図13）。各試掘坑は0.25㎡級バックホーを使用し、一回に10～20cmずつ掘り下げ、遺構・遺物の有無の確認に努めた。掘り下げ終了後は土層の堆積状況を観察し記録にとどめた。



図12 調査地周辺図（S=1/5,000）

**調査結果** 土層堆積状況については図14のとおりである。全ての試掘坑で砂丘基盤層が検出された。その上は暗褐色から明褐色の砂層が6層にわたって堆積しているが、植物や炭化物、礫などを含む層はなく、遺構・遺物とも一切検出されなかった。

**調査後の措置** 平成12年6月8日、都市計画法第32条にかかる開発行為事前協議書を事業者より受理した市都市開発課は、7月6日に市の関係各課によって構成される開発行為協議会を開催した。歴史課は確認調査の結果、当該地は遺跡とは認められなかったと、口頭及び文書（平成12年7月13日付け）で回答した。

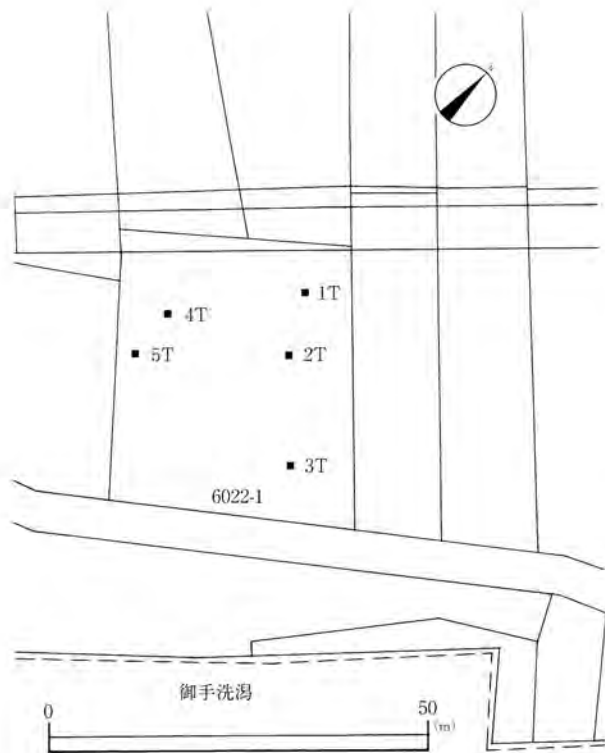


図13 試掘坑配置図 (S=1/1,000)

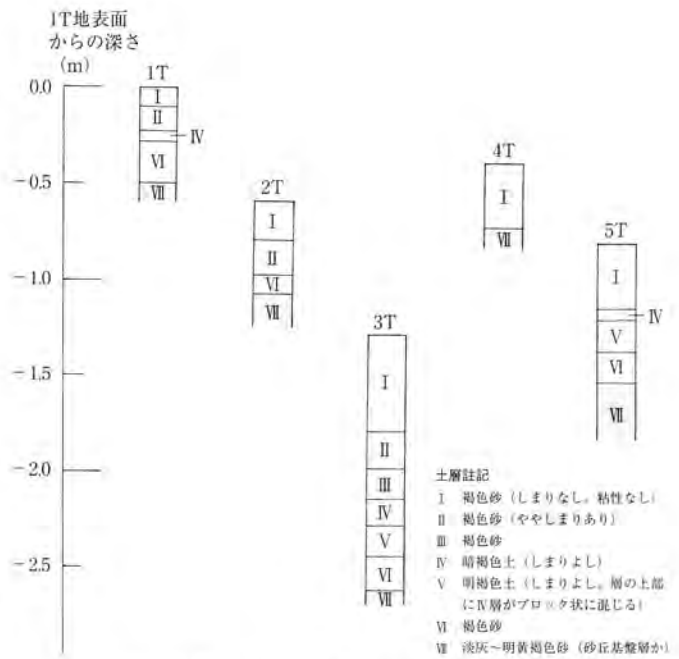


図14 土層柱状図 (深度方向のみ S=1/40)



調査地全景 (北から)



1T 土層堆積状況



2T 土層堆積状況



3T 土層堆積状況



## Ⅶ <sup>さるがぼぼ</sup>猿ヶ馬場 A 遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市猿ヶ馬場 1 丁目 174 番 11 ほか

調査期間：6 月 22 日(木)

調査面積：調査対象面積 66.0m<sup>2</sup> 調査面積 6.0m<sup>2</sup> (調査対象面積の約 9%)

調査担当：廣野耕造

### 1 遺跡の概要

**立地ほか** 猿ヶ馬場 A 遺跡は石山砂丘（阿賀野川以東の新砂丘Ⅱ-2列に対比される）の南斜面に立地する。昭和 9（1934）年には弥生土器・須恵器などを少量出土する遺跡として言及され（畠山 1934）、その後、石山団地造成中に須恵器片・土師器片などが出土したという記録がある（新潟市合併町村史編集室 1986）。遺物の散布状況等から A と B の 2 遺跡に分かれており、出土遺物から見ると弥生時代、奈良・平安時代及び中世にかかる複合遺跡と推定されるが、周辺が宅地化されてしまったため、詳細については不明の部分が多い。現在周知化されている面積は約 5,600m<sup>2</sup> である。

**主な既往の調査** 周辺での開発に対応し、平成 9（1997）年度、平成 10（1998）年度及び平成 11（1999）年度に範囲確認調査が実施されている（朝岡 1998・1999・2000）。平成 11（1999）年度の調査でわずかに中世から近世の陶器片や近世の遺構が検出されたほかは、遺構・遺物は確認されていない。

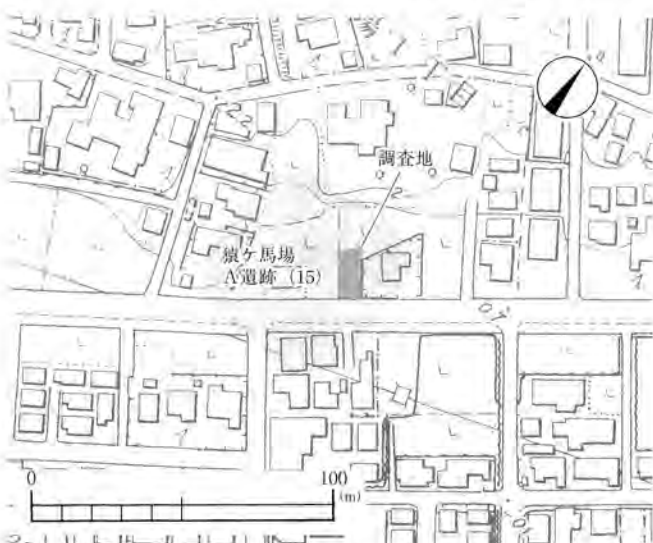
### 2 調査に至る経緯

**協議** 平成 12（2000）年 3 月、新潟市内の民間業者が事務所を建設するにあたり、その用地内の遺跡の有無について新潟市に照会し、猿ヶ馬場 A 遺跡の範囲内にかかることが判明した。市は業者に法 57 条の 2 に係る発掘届の提出を依頼した。

**届出など** 業者は市教委を経由して法 57 条の 2 に係る発掘届を県教委に提出（平成 12 年 6 月 16 日付け）、埋文センターは範囲確認調査の実施は避けられないと判断し、県教委の指示を待たず市教委から法 58 条の 2 に係る発掘通知を提出した（平成 12 年 6 月 19 日付け）。県教委からは確認調査を実施するよう書面で指示があった（平成 12 年 6 月 28 日付け）。

### 3 調査の経過

**調査方法** 事業予定地内に 1.5m×5.0m の試掘坑を 1 本設定し（図 16）、0.15m<sup>2</sup> 級のバックホーを用いて一回に 10～20cm づつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が露出するまでとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。



**調査結果** 土層については、基盤砂層（Ⅷ層）の上に砂・粘土・シルトが交互に堆積するという状況であった（図 17）。遺物・遺構は一切検出されなかった。

**調査後の措置** 今回の調査地では遺構・遺物ともに検出されなかったため、遺跡の保護上特に問題はないと考えられると市教委から県教委に報告した（平成 12 年 7 月 10 日付け）。それを受け、県教委から事業者宛に工事にあたっては慎重に実施するよう、書面で通知された（平成 12 年 7 月 19 日付け）。

図 15 調査地周辺図 (S=1/2,500)

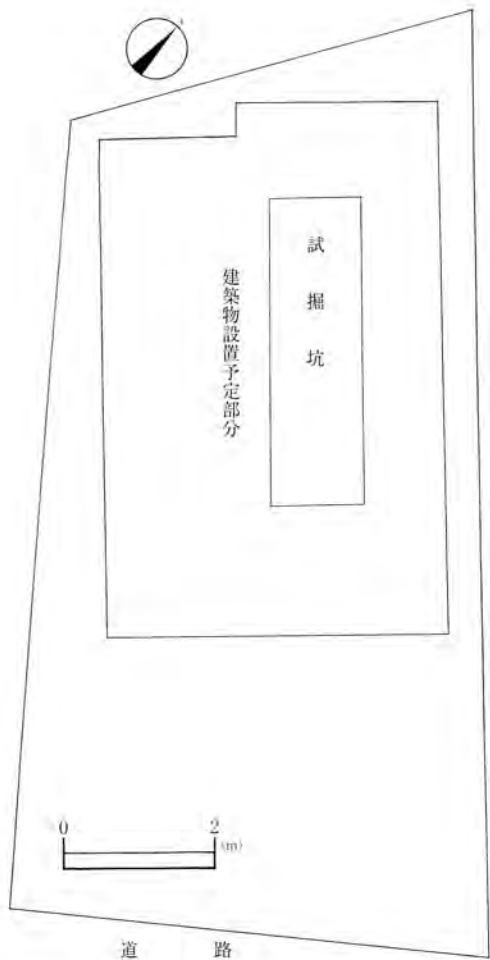
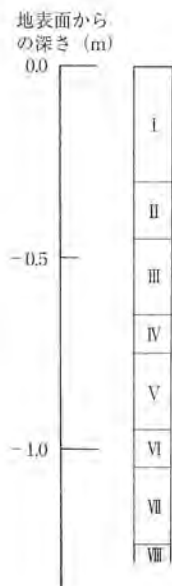


図16 試掘坑配置図 (S=1/100)



土層註記

- I 黒色砂 (表土・耕作土)
- II 灰黄色シルト (粒子粗い。しまりあり。粘性ややあり)
- III 灰褐色砂 (粒子粗い。暗灰色シルトを含む)
- IV 暗灰色粘土 (粒子細かい。しまりあり。炭化物細粒をわずかに含む)
- V 明灰色粘土 (粒子細かい。しまりあり。粘性強い。)
- VI 黒褐色砂 (粒子やや粗い。しまりあり。粘性弱い)
- VII 明灰黄色砂 (粒子やや粗い。しまりあり。粘性なし。基盤砂層)

※地表面の絶対高はおよそ1.0m

図17 土層柱状図 (S=1/20)



調査地全景 (東から)



試掘坑 調査終了状況



試掘坑 土層堆積状況

## Ⅷ 丸山遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市茗荷谷字才樋山1419番2ほか

調査期間：7月6日(木)

調査面積：調査対象面積500.0㎡ 調査面積21.6㎡（調査対象面積の約4.3%）

調査担当：廣野耕造

### 1 遺跡の概要

**立地ほか** 丸山遺跡は亀田砂丘後列の砂丘列が南へ舌状に張り出した部分に立地している。昭和36（1961）年には土器が拾われたとの報告がある（山田1961）。しかし、昭和45（1970）年ころの砂取りで遺跡の立地する砂丘は削平されたとされている（新潟市史編さん原始古代中世史部会1994）。詳細については不明だが、土地改良事業に係る暗渠排水路工事中、須恵器や土師器が出土したという（酒井・坂井ほか1987）。現在周知化されている面積は約41,000㎡である。

**主な既往の調査** 平成元（1989）年には道路拡張に伴って分布調査が実施され、特に問題なしとして調査後工事に着手している（新潟市教育委員会1990、藤塚1991）。平成3（1991）年には団地造成、平成4（1992）年には小学校体育館建設などを原因として分布調査や試掘調査が実施されているが、遺構や遺物は確認されていない（新潟市教育委員会1993）。平成5（1993）年にも分布調査が実施されたが遺物は採集されていない（新潟市教育委員会1994）。

### 2 調査に至る経緯

**協議** 新潟市に対し個人住宅建設請負業者から当該地における遺跡の有無について照会があり、遺跡にかかっていることが判明した。市は業者を通じて施工主に法57条の2に係る発掘届の提出を依頼した。

**調査** 業者は市教委を経由して法57条の2に係る発掘届を県教委に提出（平成12年6月14日付け）、一方、市は範囲確認調査の実施は避けられないと判断し、県教委の指示を待たず市教委から法58条の2に係る発掘通知をあわせて提出した（平成12年6月19日付け）。県教委は遺跡の範囲が不明であるとして範囲確認調査の実施を新潟市教育長に文書で指示した（平成12年6月28日付け）。

### 3 調査の経過

**調査方法** 事業予定地内に1.2m×12.0m及び1.2m×6.0mの試掘坑を直行するように各1本設定した（図19）。0.15㎡級のバックホーを用いて一回に10～20cmづつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努め、掘り下げ深度は基盤層が

露出するまでとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

**調査結果** 土層については、基盤砂層（Ⅱ層）の上に20cm程度の表砂が堆積するという状況であった（図20）。遺物・遺構は一切検出されなかった。

**調査後の措置** 今回の調査地では遺構・遺物ともに検出されなかったため、遺跡の保護上特に問題はないとの考えを市教委から県教委に報告した（平成12年7月21日付け）。それを受け、県教委から事業者宛に工事にあたっては市教委の職員を立ち合わせるよう、書面で通知された（平成12年8月2日付け）。

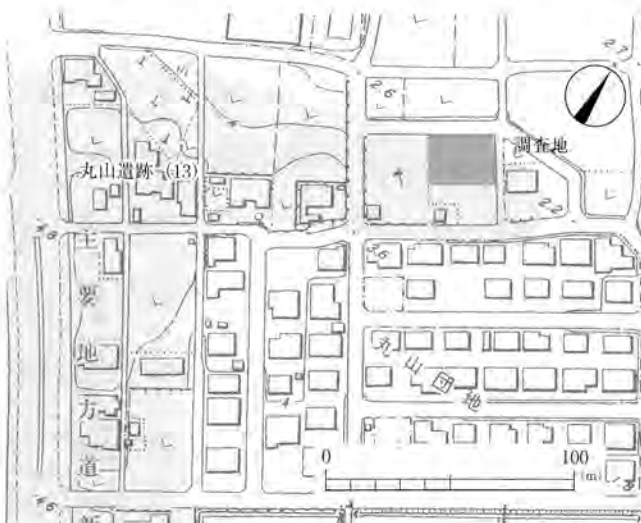


図18 調査地周辺図（S=1/3,000）

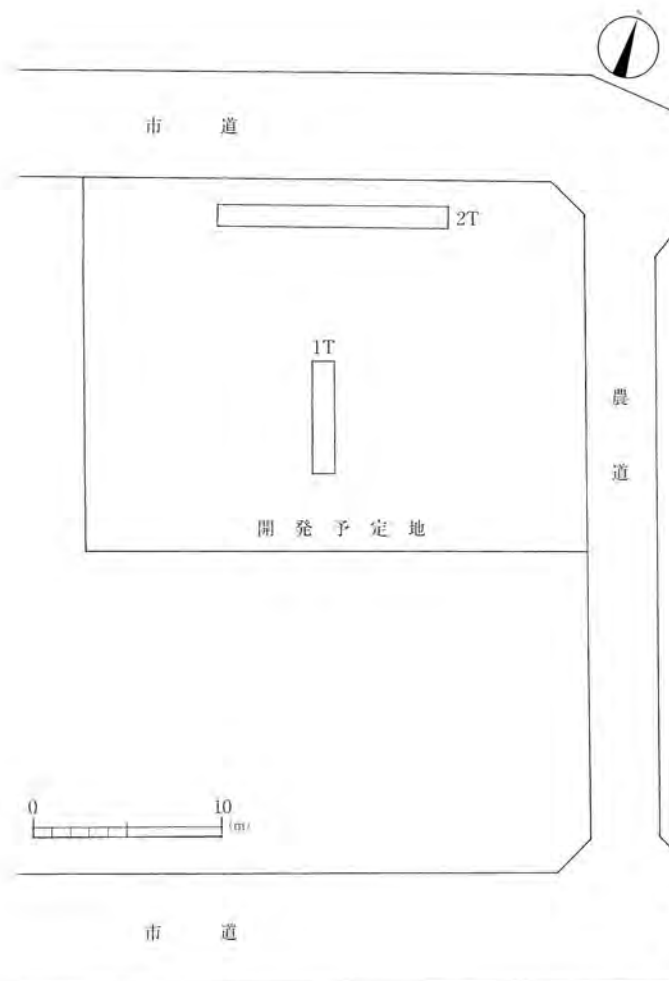


図19 試掘坑配置図 (S=1/400)

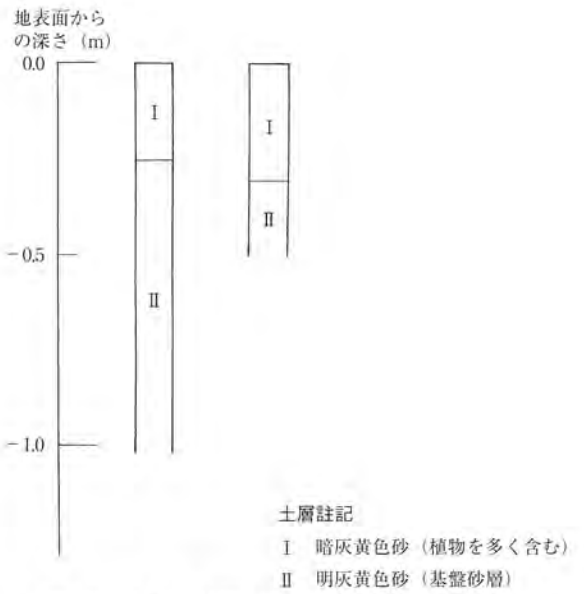
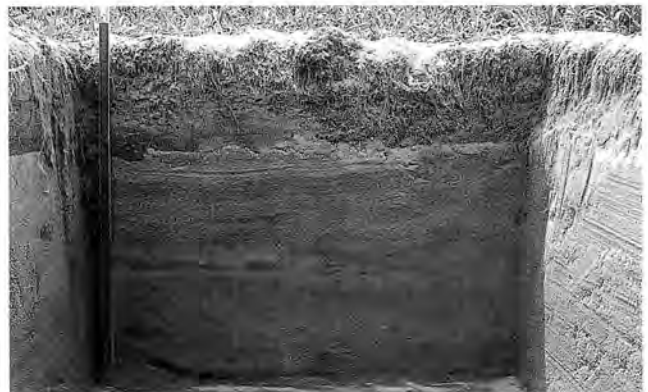


図20 土層柱状図 (深度方向のみ S=1/20)



調査地全景 (北から)



1T 土層堆積状況



1T 調査終了状況



2T 調査終了状況



2T 土層堆積状況

## IX 海老ヶ瀬地区試掘調査

調査地：新潟市海老ヶ瀬字長田444番1ほか

調査期間：8月8日(火)・9日(水)

調査面積：調査対象面積25,037.4㎡ 調査面積54.0㎡ (調査対象面積の約0.2%)

調査担当：廣野耕造

### 1 調査地の概要

**立地ほか** 調査地は新砂丘Ⅱの後背低地であり、現地表面でも標高-0.3mと著しく低い。南東へ約600m地点に石動遺跡<sup>いずるぎ</sup>(市遺跡番号85)があるほかは周辺に周知の遺跡はみられない。

### 2 調査に至る経緯

**協議** 民間の自動車学校より市教委に対し、当該地に移転を予定しているため、遺跡の有無について調査してほしいとの依頼が文書であった(平成12年7月10日付け)。

**届出など** 上記の依頼を受け、試掘調査を実施するため法58条の2による発掘通知を市教委から県教委に提出した(平成12年7月27日付け)。

### 3 調査の経過

**調査方法** 事業予定地内に1.8m×2.0mを基本とする試掘坑を15ヶ所設定した(図22)。0.4m級のバックホーを用いて一回に10～20cmづつ土層を掘り下げながら遺構・遺物等の有無の確認に努め、掘り下げ深度は基盤層が露出するまで、ないし2.0mを限界とした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

**調査結果** 土層については、基盤層が検出できず、低湿地に堆積した粘土層やシルト層の検出にとどまった(図23)。遺物・遺構は一切検出されなかった。

**調査後の措置** 今回の調査地では遺構・遺物ともに検出されなかったため、遺跡の保護上特に問題はないとの考えを市教委から県教委に報告した(平成12年9月18日付け)。工事は年度内に着工されている。



図21 調査地周辺図 (S=1/10,000)

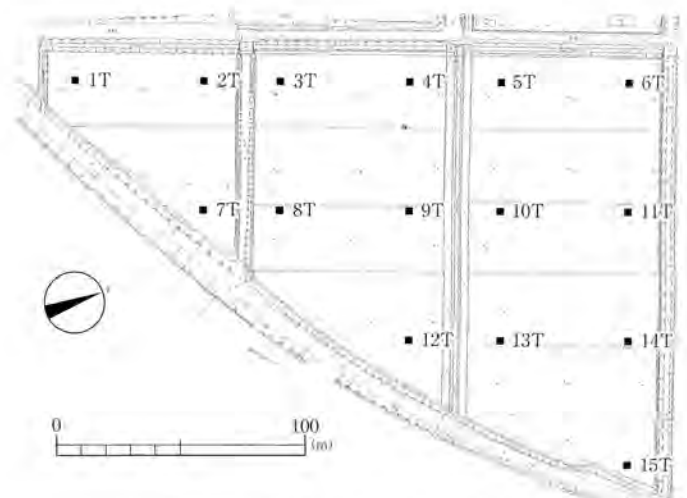


図22 試掘坑配置図 (S=1/3,000)

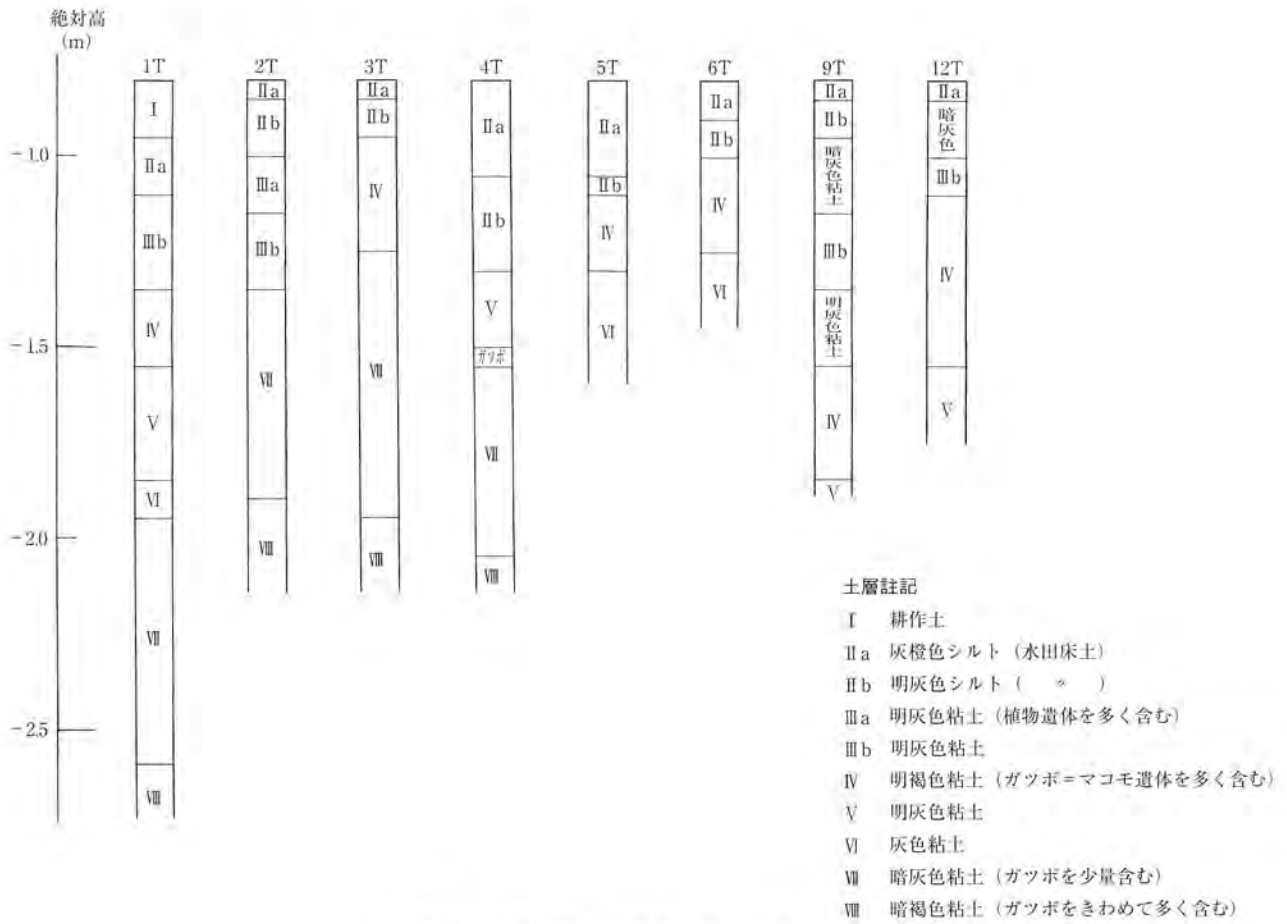


図23 土層柱状図 (深度方向のみ S=1/20)



調査地全景 (北から)



1T 土層堆積状況



6T 土層堆積状況



12T 土層堆積状況

## X 清水が丘遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市丸山ノ内善之丞組字宮前77番地1ほか

調査期間：8月23日(水)

調査面積：調査対象面積231.0㎡ 調査面積21.0㎡（調査対象面積の約9%）

調査担当：廣野耕造

### 1 遺跡の概要

**立地ほか** 清水が丘遺跡は亀田砂丘後列の砂丘列南斜面に立地する。昭和60（1985）年の分布調査によって発見されたが、少量の土器片が認められたのみであり、範囲等詳細は明確ではない。

### 2 調査に至る経緯

**協議** 平成12（2000）年7月、清水が丘遺跡に係る土地における農地法第4条の規定による許可申請書（いわゆる農地転用）が提出されたとの連絡が新潟市農業委員会事務局より歴史文化課にあった。これを受け、代理人をとおして申請者と協議した結果、当該地に個人住宅を建てる予定であること、農地転用が許可され次第着工したい意向であることがわかった。市では申請者に対し、当該地が清水が丘遺跡の隣接地であるため、法57条の2による発掘届について提出を依頼した。

**届出など** 農地転用申請者は市教委を経由して上記の発掘届を県教委に提出（平成12年7月21日付け）、県教委から市教委に対して遺跡の範囲が不明確なので確認調査をするようにとの通知があり（平成12年8月7日付け）、これを受け市教委から法58条の2に係る発掘調査の報告を県教委に送付し（平成12年8月17日付け）、調査に着手することとなった。

### 3 調査の経過

**調査方法** 南北方向に細長い形状を呈する調査地の主軸にほぼ平行する形で1.2m×12.5mの試掘坑を設定した（図25）。0.15㎡級のバックホーを用いて一回に10～20cmづつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が露出するまでとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

**調査結果** 基盤層は粒度の細かい灰黄色砂であり、調査地が砂丘の南側端部に立地していることをうかがわせる。基盤層の上に各種の土壌が堆積し、最上層は現在の耕作土であった（図26）。ただし、Ⅳ層は粘土であるため、この地が一時冠水した可能性もあると考えられる。

遺物はⅡ層から近世陶器片が数点出土したのみである。遺構は検出されなかった。

**調査後の措置** 市教委は今回の調査地を遺跡の範囲外であると、県教委に報告した（平成12年9月16日付け）。それを受け、県教委から事業者宛に工事にあたっては支障ないと通知された（平成12年9月28日付け）。

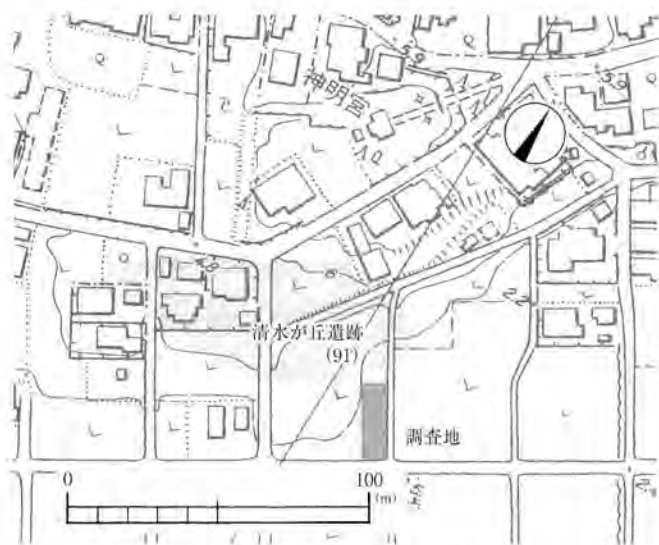


図24 調査地周辺図（S=1/2,500）

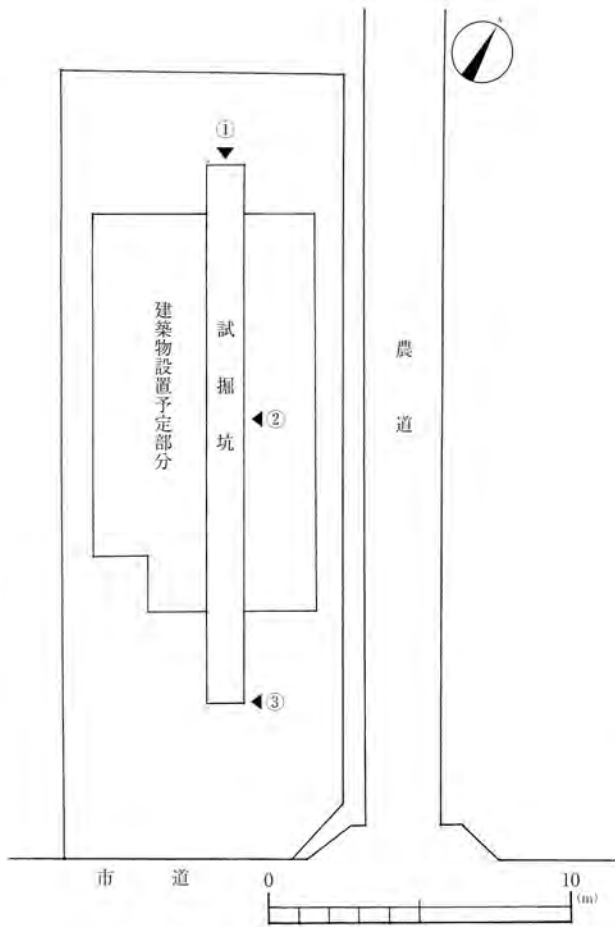


図25 試掘坑配置図 (S=1/250)

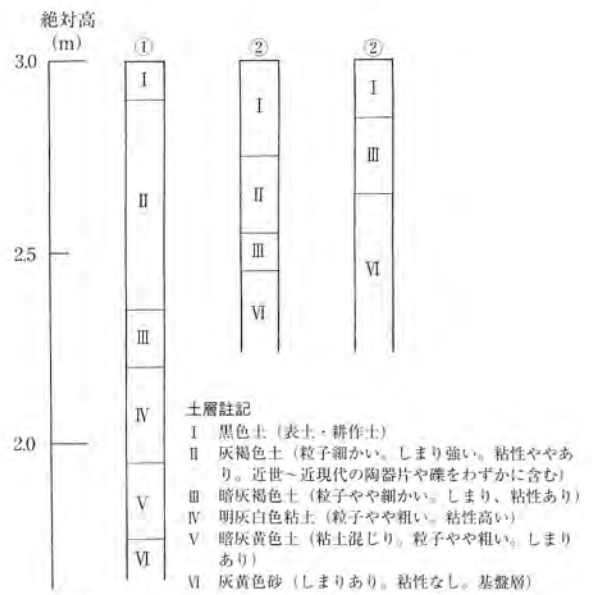


図26 土層柱状図 (深度方向のみ S=1/20)



調査地全景 (南東から)



試掘坑 調査終了状況



試掘坑 土層堆積状況①



試掘坑 土層堆積状況②



試掘坑 土層堆積状況③



# XI ためいけ溜池遺跡範囲確認調査

調査地：新潟市河渡字庚338ほか

調査期間：8月24日(木)・25日(金)・28日(月)～30日(木)

調査面積：調査対象面積127,900.0㎡ 調査面積294.0㎡ (調査対象面積の約0.2%)

調査担当：廣野耕造

## 1 遺跡の概要

**立地ほか** 溜池遺跡は新砂丘Ⅲに該当する物見山砂丘最前列に立地する。昭和10(1935)年には金塚友之丞氏による「甕池(かつて大甕が埋めてあったという伝承がある)」についての記載がある(金塚1935)が、この池と溜池遺跡との関係は現在不明である。

**主な既往の調査** 平成7(1995)年、民間の事務所建設に先立つ範囲確認調査を市教委が実施したが、遺構・遺物とも確認されていない(新潟市教育委員会1996)。

## 2 調査に至る経緯

**協議** 市は平成11(1999)年度中より、当該地における大規模店舗開発に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて、民間業者と協議してきた。開発予定地の一部が溜池遺跡の隣接地であり、宮浦遺跡(市遺跡番号35)にも近いことから、市としてはこの業者に法57条の2に係る発掘届の提出を依頼した。また、遺跡に隣接していない部分についても、遺跡の有無について調べるため、試掘調査を実施することとした。

**届出など** 業者は市教委を経由して上記の発掘届を県教委に提出(平成12年7月4日付け)、県教委からは市教委に対し遺跡の範囲が不明確なので確認調査をするようにとの通知があった(平成12年7月19日付け)。これを受け市教委から法58条の2に係る発掘調査の報告を県教委に送付し(平成12年8月15日付け)、調査に着手することとなった。

## 3 調査の経過

**調査方法** 溜池遺跡の隣接地付近にはやや密にする形で、事業予定地内に2.0m×3.0mの試掘坑を49本設定した(図28)。0.25㎡級のバックホーを用いて一回に10～20cmづつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が露出するまで、ないし深度2.0mまでとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

**調査結果** 調査前、地権者への説明をかねて実施した聞き取りでは、付近一帯はかつて低湿地で、耕作等には利用不可

能な土地であり、現在のような状態にするため場所によっては2m以上も土や砂を盛っているとのことであった。調査結果でも概ねそのとおりの知見が得られている。一部の試掘坑で明灰色砂層が検出されてこれが基盤層であろうと考えられるが、ほとんどの試掘坑ではそこまで到達できなかった。基盤層の上に堆積している明青灰色シルトや暗緑灰色粘土は、攪乱の痕跡もなく、またシルトや砂には水成層特有のラミナが観察されることから、これらが本来の自然層であると考えられる(図29)。

遺物・遺構については、試掘坑12Tにて近世陶器片1点を伴う溝状遺構が検出されている。

**調査後の措置** 今回の調査地では、溜池遺跡や宮浦遺跡の広がりの確認されなかったため、遺跡の範囲外である



図27 調査地周辺図 (S=1/25,000)

との考えを市教委から県教委に報告した（平成12年9月29日付け）。それを受け、県教委から事業者宛に工事にあたっては慎重に実施するよう書面で通知された（平成12年10月20日付け）。なお、近世の遺構・遺物が検出された12T周辺については、事業者に対して破壊しないような方法で開発するよう、市から申し入れを行っている。

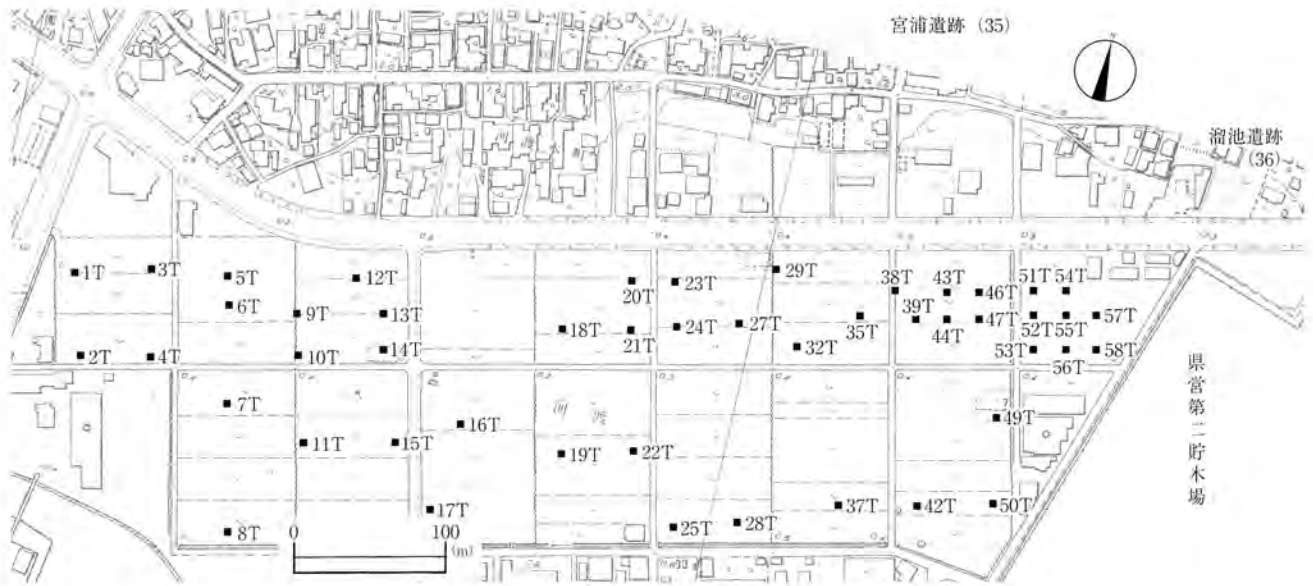


図28 試掘坑配置図 (S=1/5,000)

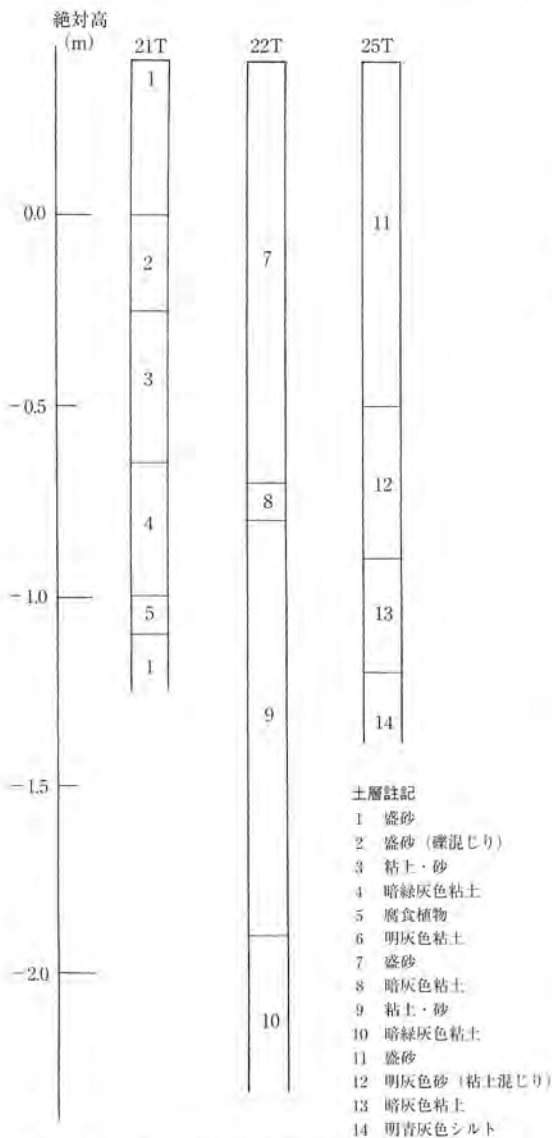


図29 土層柱状図 (深度方向のみ S=1/20)



調査地全景 (北東から)



10T 遺構及び遺物検出状況(1)



10T 遺構及び遺物検出状況(2)

## XII <sup>うばかやま</sup>姥ヶ山地区試掘調査

調査地：新潟市姥ヶ山字大日南田45番地1ほか

調査期間：10月25日(水)～27日(金)・30日(月)～11月2日(休)

調査面積：調査対象面積131,300.0㎡ 調査面積234.0㎡ (調査対象面積の約0.2%)

調査担当：廣野耕造

### 1 調査地の概要

**立地ほか** 調査地は新砂丘Ⅰ(亀田砂丘)とⅡ(石山砂丘)の間に広がる沖積地であり、現地表面の標高が-1.5m～-0.5mという低地で、調査前の現況は水田である。いわゆる亀田郷のほぼ中心地で、その最も低湿な部分にあたる。新砂丘Ⅱからは南へ約0.6km、Ⅰからは北西へ約3.0km離れている。周囲1kmの範囲内にある遺跡は、石仏山(石仏。中世の遺跡か。市遺跡番号80)のみである。なお、調査地に隣接し、南側に日本海沿岸自動車道(日沿道)、東側に国道49号線バイパスが走っている。

### 2 調査に至る経緯

**協議** 平成11(1999)年度中から数回にわたって、当該地に大規模店舗建設を予定する業者と市とで協議を重ねた。周知の遺跡はかかっていないが、似たような条件にある市内茗荷谷の沖積地から東開遺跡が新発見されたことを重視、また県教委の助言も得た上で、事業者の了解を得て試掘調査を実施することとなった。

**届出など** 事業者より埋蔵文化財の所在状況について調査依頼が提出された(平成12年9月21日付け)のを受け、市教委は法58条の2による発掘調査の通知を県教委に提出した。

### 3 調査の経過

**調査方法** 2.0m×3.0mの試掘坑を39ヶ所、調査対象地全域に均等に配置した(図31)。当初の予定ではさらに多くの試掘坑を調査する予定であったが、極めて軟弱な地盤のため掘削用のバックホー(0.4㎡級)が入れないなどの理由で間引いた試掘坑も少なくない。バックホーを用いて一回に10～20cmづつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が露出するまでか深度2.0mに達するまでとした。掘り下げ終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

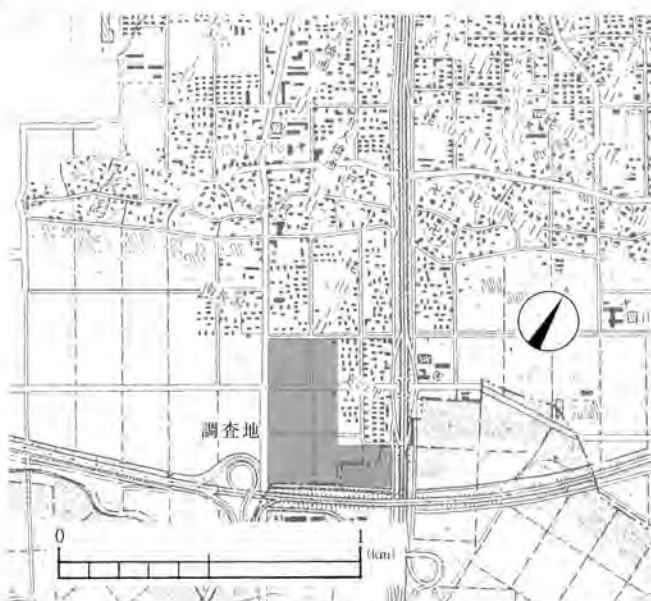


図30 調査地周辺図 (S=1/25,000)

**調査結果** 全ての試掘坑でⅣ層すなわち腐食植物層(マコモ類の堆積したもの。地元の言葉でガツポと呼んでいるもの)が検出され、調査地の全域にわたってかつてはマコモ類の繁茂する低湿地であったことが知られる。一部の試掘坑では最下底で灰色砂が検出されており、これが基盤層と考えられる。この層の上にシルトと粘土が互層になっているのが観察された。掘削可能な範囲の深度で基盤層が検出された試掘坑は調査区の南側に集中していることから、砂層堆積当時の古地形は南側に向かって高くなっていたことが推定される(図32)。

遺物は試掘坑28TのⅣ層直上から近世陶器片2点が出土したのみである。遺構は検出されなかった。

**調査後の措置** 市教委は今回の調査地は遺跡と認められないとし、県教委に報告した(平成12年12月11日付け)。

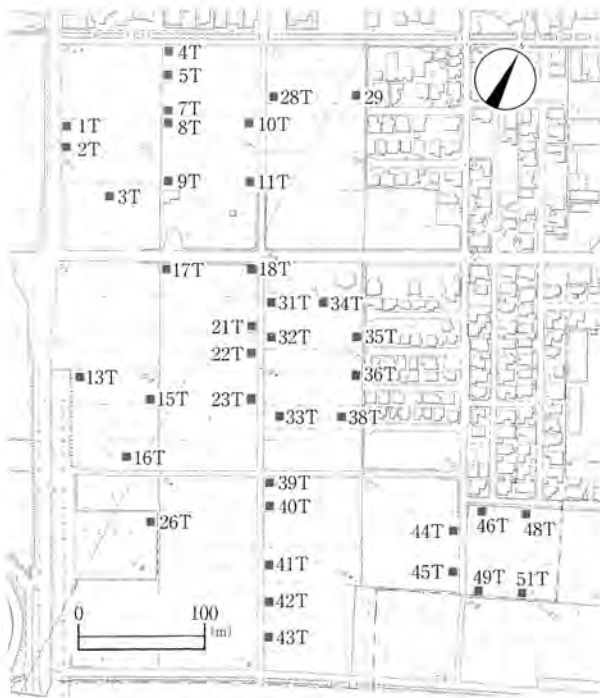


図31 試掘坑配置図 (S=1/6,000)



調査地全景 (西から)



4T 調査終了状況



22T 調査終了状況

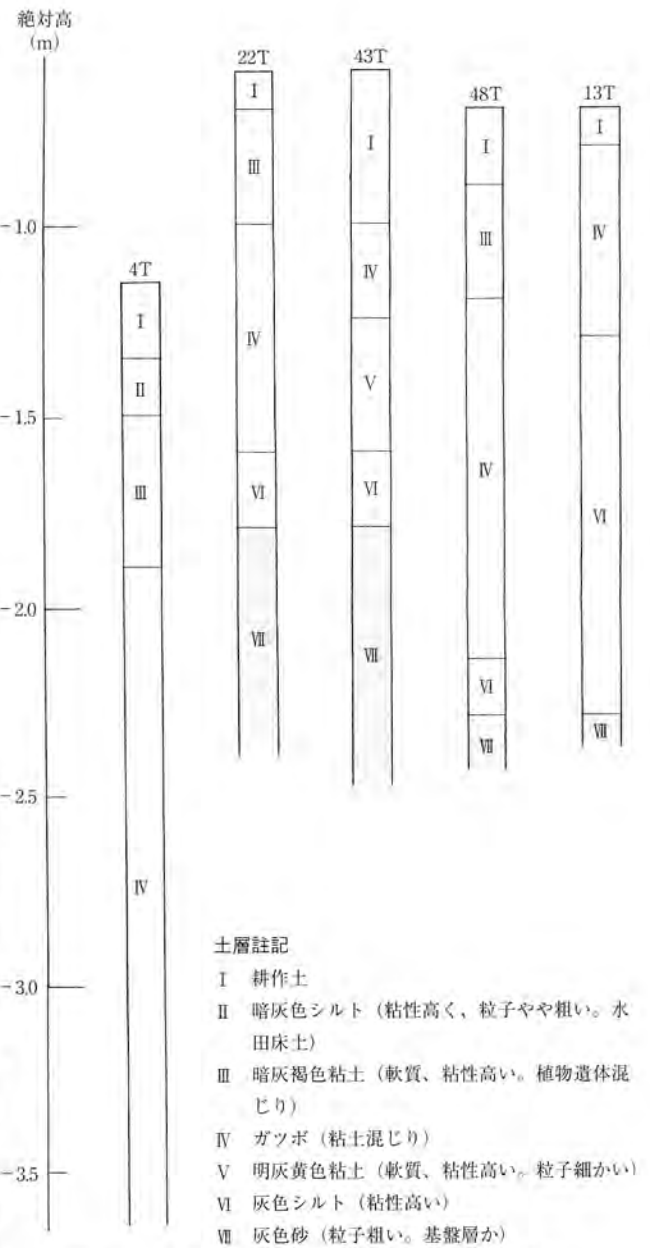


図32 土層柱状図 (深度方向のみ S=1/20)



43T 調査終了状況

## ⅩⅢ <sup>うちのにし</sup>内野西土地区画整理事業関連試掘・確認調査

調査地：新潟市五十嵐下崎山199ほか

調査期間：平成13（2001）年2月21日(木)～23日(金)・26日(月)

調査面積：調査対象面積24,320.0㎡ 調査面積162.0㎡（調査対象面積の約0.7%）

調査担当：廣野耕造

### 1 調査地の概要

**立地ほか** 調査地は新砂丘Ⅱ-c列の南斜面に接する沖積地で、現況はほとんどが水田、一部が畑となっている。現地表面の標高は砂丘地の縁辺部で0.5m～1.5m、砂丘地から南へ離れた内陸部分で0.6m～0.7mを測る。周辺の遺跡についてみると、調査地の北部が内野潟端B遺跡（中世の遺跡。市遺跡番号101）に隣接、また調査地の東端から東へ約0.2kmには六地山遺跡（弥生時代を中心とする遺跡。残丘状の砂丘列上に立地。市遺跡番号3）推定範囲の西端部が及んでいる。

なお、内野潟端B遺跡は昭和60（1985）年に市教委の実施した分布調査で珠洲焼が採集されたことにより発見されたが、範囲等詳細は不明である（新潟市史編さん原始古代中世史部会1994）。

### 2 調査に至る経緯

**協議** 平成11（1999）年に市教委が実施した平成12年度以降の開発計画に関する照会に対し、市都市整備局都市開発部都市開発課より「内野西土地区画整理事業」について回答が寄せられ、同課担当者<sup>1</sup>と埋文センター担当者との間で協議を開始した。その結果、事業予定地の一部は内野潟端B遺跡の隣接地であるため、土地区画整理組合設立の目途が立った時点で法57条の2による発掘通知を提出し県教委からの指示に従うこと、その指示は確認調査をするということになる公算が高いので、調査時期について事業スケジュールの中に組み入れて考えておく必要があること、組合設立間近になったら再協議すること、以上の3点について確認し、合意をみた。その後、平成12（2000）年10月に至り、都市開発課担当者より組合設立の目途が立ったとの知らせがあり再協議を開始した。その結果、組合側より、資金調達の関係上、組合設立直後に一部の工事を急ぎ開始せざるを得ず、その部分についてだけでも試掘調査を急いでもらいたいとの要望があった。年度末が迫り関係予算が乏しい時期ではあったが、前倒し着工分についてのみ調査を実施することとなった。

**届出など** 事業者より法57条の2による発掘届が市教委経由で県教委に提出（平成12年12月8日付け）され、県教委より市教委に対し確認調査の指示があった（平成12年12月22日付け）ため、市教委から法58条の2による発掘調査の通知を県教委に送付（平成12年2月20日付け）し、調査を実施することとなった。



図33 調査地周辺図（S=1/50,000）

### 3 調査の経過

**調査方法** 平成12（2000）年度施工分を調査対象地とし、それが3ヶ所に分散しているため便宜上A、B、Cと呼称した（図34）。2.0m×3.0mの試掘坑を、調査区Aには20m間隔を基本として5ヶ所、調査区Bは内野潟端B遺跡の隣接地なのでやや密に10m間隔を基本として8ヶ所、調査区Cには20m間隔を基本として14ヶ所設定し、調査した（図35～37）。当初の予定ではさらに多くの試掘坑を調査する予定であったが、表土が極めて軟弱であるなどの理由でバックホー（0.4㎡級）が行動不能となり、やむを得ず掘削を断念した試掘坑もある。バックホーを用いて一回に10～20cmづつ土層を掘り下げ、遺構・遺物等の有無の確認に努めた。掘り下げ深度は基盤層が露出するまでか深度2.0mに達するまでとした。ただし後世の盛土等が厚

い地点の場合、いったん旧地表面まで掘り下げてから試掘坑を設定した部分もあり、こうした場所では現地表面から2.0 m以上掘り下げている。掘削終了後、土層の堆積状況を観察し、記録にとどめた。

**調査結果** 極めて広い範囲での調査であったが、土層の堆積状況は斉一性が高く、場所による層序の違いはほとんどみられなかった。表土及び耕作土が粘土であるほかは、シルトを主体とする構成であったため、試掘坑は掘削終了直後から速やかに崩壊をはじめ、精査や記録作成に非常な困難を来した。多くの試掘坑で基盤砂層（Ⅳ層）が確認されている（図38～40）。市内の沖積地でよくみられるいわゆるガツボが、ここではほとんど検出されなかった。当該地一帯が、かつてマコモ類も生育できない程度の、かなりの深さで冠水していた可能性も考えられる。

遺物は全く検出されなかった。遺構も同様である。

**調査後の措置** 市教委は今回の調査地は遺跡と認められないとし、県教委に報告した（平成13年3月12日付け）。



図34 調査区A・B・C位置図（S=1/5,000）

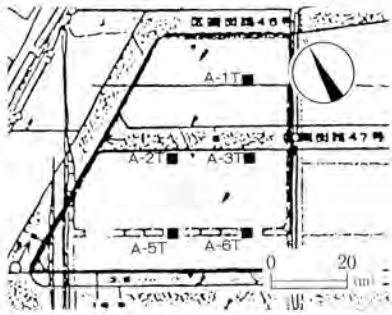


図35 調査区A 試掘坑配置図  
(S=1/2,000)



図36 調査区B 試掘坑配置図  
(S=1/2,000)

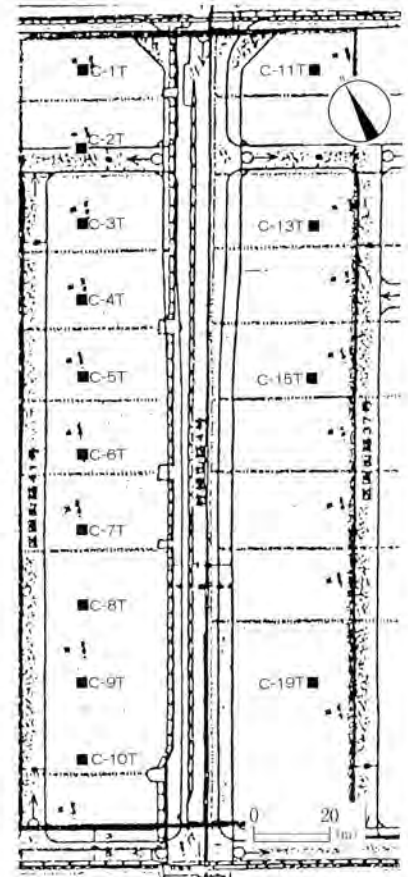


図37 調査区C 試掘坑配置図  
(S=1/2,000)

- 土層註記
- I 暗茶褐色土 (シルト質。耕作土・表土)
  - II 灰黄色土 (シルトから粘土に近い)
  - III a 明灰色土 (シルト質。粒子細かい。植物質や黒色粒子が混じることもある)
  - III b 明灰色土 (シルト質。粒子細かい)
  - IV 明青灰色砂 (粒子粗い。基盤層か)

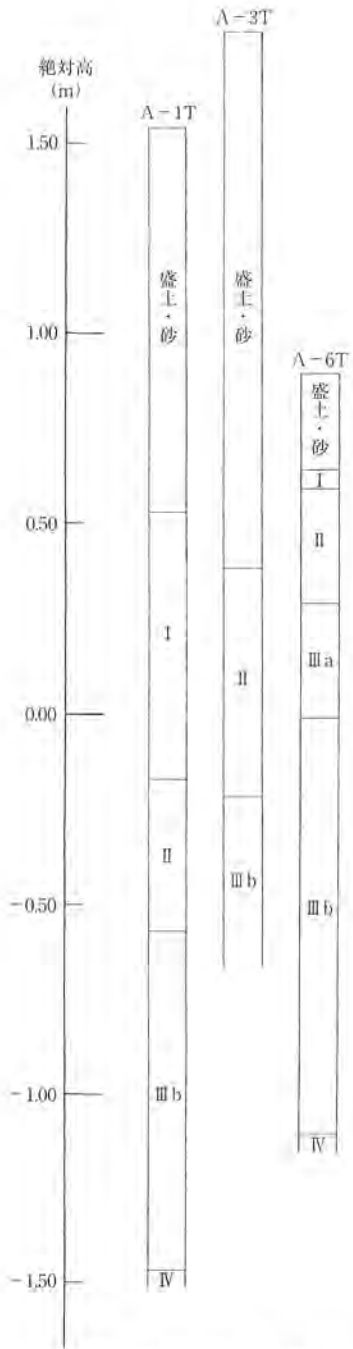


図38 調査区A 土層柱状図  
(深度方向のみ S=1/20)

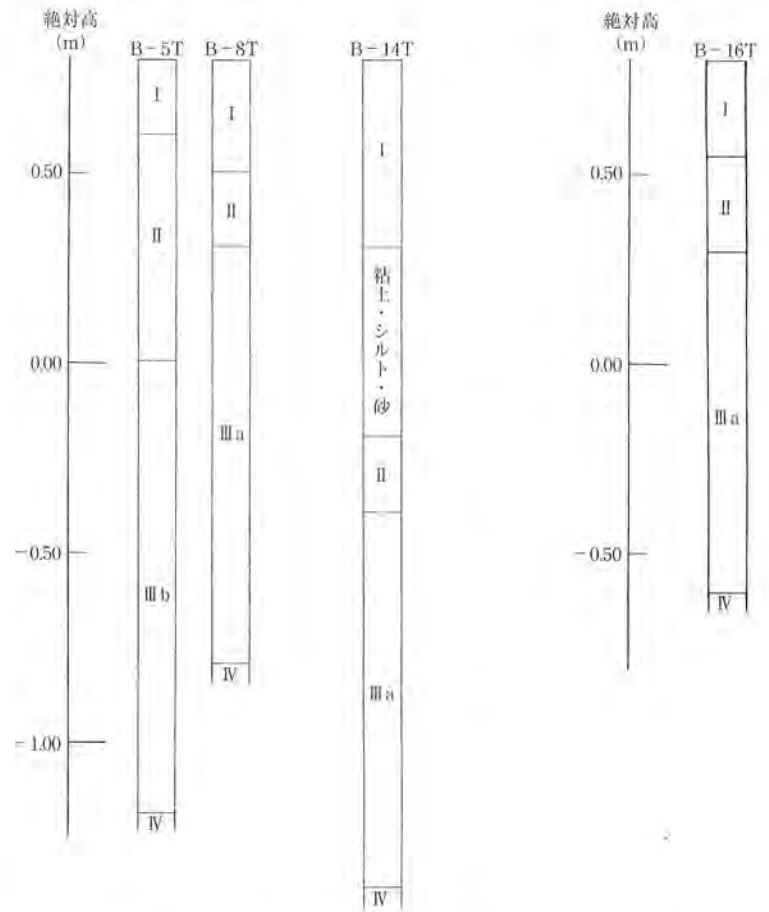


図39 調査区B 土層柱状図 (深度方向のみ S=1/20)



調査区A 全景（南から）



A-1T 調査終了状況



A-3T 調査終了状況



A-6T 調査終了状況



調査区B 全景（東から）



B-5T 調査終了状況



B-8T 土層堆積状況



B-14T 調査終了状況



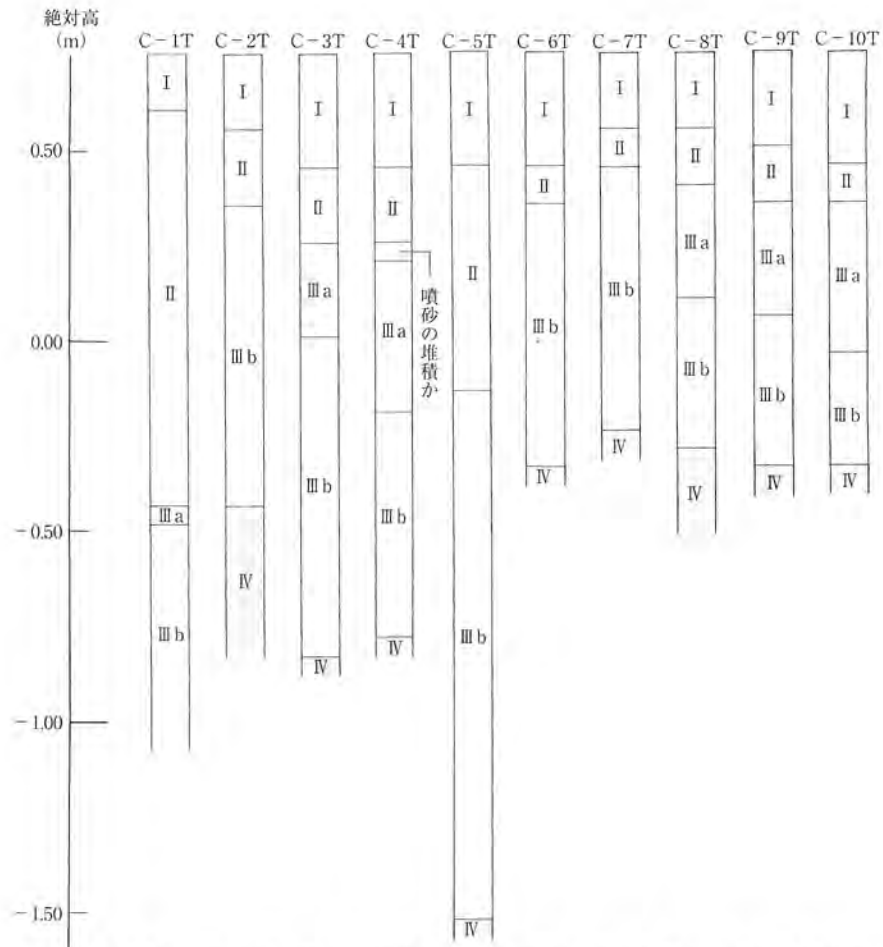
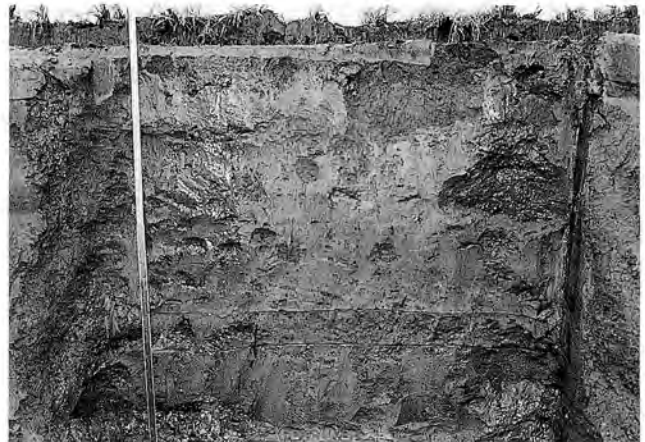


図40 調査区C 土層柱状図 (深度方向のみS=1/20 土層註記は30頁を参照)



調査区C 全景 (北東から)



C-1T 土層堆積状況



C-5T 調査終了状況



C-10T 調査終了状況

## 引用・参考文献

- 畠山佑二 1934 「蒲原平野の土器石器について」『初等教育』6月号 新潟師範附属小学校
- 金塚友之丞 1935 「康平図・寛治図偽作論(下)」『高志路』8 高志社
- 上原甲子郎 1956 「弥彦角田山周辺古文化遺跡概観」『弥彦角田山周辺総合調査報告書』 新潟県教育委員会
- 山田武雄 1961 「亀田砂丘における土器と花粉分析について」『新潟県地学教育研究会誌』2 新潟県地学教育研究会
- 新潟市教育委員会社会教育課 1983 「埋蔵文化財調査」『昭和57年度 新潟市文化財調査概要』
- 新潟市合併町村史編集室 1986 『新潟市合併町村の歴史』4 中蒲原郡から合併した町村の歴史 新潟市
- 酒井和男・酒井陽一ほか 1987 『大江山地区の遺跡』 新潟市教育委員会
- 関雅之 1988 「畠山佑二コレクション」『豊栄市史』資料編1 豊栄市
- 新潟市史編さん自然部会 1991 『新潟市史』資料編12自然 新潟市
- 藤塚明 1991 「1.1989年度調査概要」『1989年度埋蔵文化財発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 新潟市教育委員会 1992 『1990年度埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 新潟市教育委員会 1993 『平成3・4年度埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 新潟市教育委員会 1994 『平成5年度埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 『新潟市史』資料編1 原始古代中世 新潟市
- 新潟市教育委員会 1996 『平成7年度埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 新潟市教育委員会 1998 『平成9年度埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 新潟市教育委員会 1999 『平成10年度埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 新潟市教育委員会・新潟市 2000 『平成11年度埋蔵文化財発掘調査報告書』

### 平成12年度埋蔵文化財 発掘調査報告書

発行日 平成13年3月30日  
発行 新潟市教育委員会  
新潟市  
新潟市学校町通1番町602番地1  
〒951-8550 電話(025)228-1000  
印刷 (有)太陽印刷所  
新潟市和合町2丁目4番18号  
〒950-0985 電話(025)382-7651

# 報告書抄録

ふりがな		へいせい12ねんどまいぞうぶんかざいはくつちようさほうこくしょ						
書名		平成12年度埋蔵文化財発掘調査報告書						
編著者名		廣野耕造						
編集機関		新潟市埋蔵文化財センター						
所在地		〒951-3101 新潟県新潟市太郎代2554番地						
発行機関		新潟市教育委員会・新潟市			発行年月日		西暦2001年3月31日	
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まつやまいせき 松山遺跡	にいがたけん にいがたまつやまあざみちうえ 新潟県新潟市松山字道上	15201	110			20000317	22	個人住宅建設
めいくんこうこういてんよていち 明訓高校移転予定地	にいがたけん にいがたあざほりひがし 新潟県新潟市字堀東			37度 52分 36秒	139度 07分 05秒	20000417~20000420 20000424~20000427	550	学校建設
ひがしかいせき 東囲遺跡	にいがたけん にいがたしんみょうがたにあざひがしかい 新潟県新潟市茗荷谷字東囲		114	37度 53分 62秒	139度 07分 54秒	20000425~20001222	8,875	市道建設
おろしうりいちほけんせつていち 卸売市場建設予定地	にいがたけん にいがたしるやまのうち 新潟県新潟市丸山の内 善之丞組字浦郷			37度 52分 52秒	139度 07分 39秒	20000613~20000615	68	卸売市場建設
あかつかしんめいしがいせき 赤塚神明社遺跡	にいがたけん にいがたあかつかあざしもあらとこ 新潟県新潟市赤塚字下荒所		27	37度 49分 14秒	139度 52分 53秒	20000615	15	工場建設
ざるがぼばえーいせき 猿ヶ馬場A遺跡	にいがたけん にいがたざるがぼばえーいせき 新潟県新潟市猿ヶ馬場1丁目		15	37度 54分 12秒	139度 07分 04秒	20000622	6	事務所建設
まるやまいせき 丸山遺跡	にいがたけん にいがたしるやまあざまてごう 新潟県新潟市丸山字前郷		13	37度 52分 33秒	139度 08分 05秒	20000706	22	事務所建設
えびがせちく 海老ヶ瀬地区	にいがたけん にいがたえびがせあざながた 新潟県新潟市海老ヶ瀬字長田			37度 55分 15秒	139度 07分 56秒	20000808・20000809	54	学校建設
しみずがおかいせき 清水が丘遺跡	にいがたけん にいがたしるやまあざしみずがおか 新潟県新潟市丸山字清水が丘		91	37度 52分 26秒	139度 07分 52秒	20000823	21	個人住宅建設
たぬいけいせき 溜池遺跡	にいがたけん にいがたこうどほんちよう 新潟県新潟市河渡本町		36	37度 55分 49秒	139度 06分 37秒	20000824・20000825・ 20000828~20000830	294	店舗建設
うぼがやまちく 姥ヶ山地区	にいがたけん にいがたうぼがやまあざだいにちみなみだ 新潟県新潟市姥ヶ山字大日南田		37度 52分 43秒	139度 41分 50秒	20001025~20001027 20001030~20001102	234	店舗建設	
うちのたばたばたびーいせき 内野潟端B遺跡	にいがたけん にいがたうちのまち 新潟県新潟市内野町	101	37度 50分 45秒	138度 55分 59秒	20010221~20010223・ 20010226	162	区画整理事業	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
まつやまいせき 松山遺跡	包含地	中世						
めいくんこうこういてんよていち 明訓高校移転予定地						縄文土器片、近世の漆器		
ひがしかいせき 東囲遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳		古墳時代前期の竪穴住居・掘 立柱建物・土坑・ピットなど		縄文土器、弥生土器、古墳時代前 期の土師器・木製品・鉄滓・石製 品・黒色化米・種実類など		
おろしうりいちほけんせつていち 卸売市場建設予定地								
あかつかしんめいしがいせき 赤塚神明社遺跡	包含地	平安						
ざるがぼばえーいせき 猿ヶ馬場A遺跡	散布地	平安・室町						
まるやまいせき 丸山遺跡	包含地	平安						
えびがせちく 海老ヶ瀬地区								
しみずがおかいせき 清水が丘遺跡	包含地	平安				近世陶器片		
たぬいけいせき 溜池遺跡	包含地	平安		近世の溝状遺構		近世陶器片		
うぼがやまちく 姥ヶ山地区						近世陶器片		
うちのたばたばたびーいせき 内野潟端B遺跡	包含地	中世						

平成 12 年度埋蔵文化財発掘調査報告書 正誤表

頁	行	(誤)	(正)
4	12	(朝岡 1999)	(新潟市教育委員会 1999)
10	14	(朝岡 2000)	(新潟市・新潟市教育委員会 2000)
16	13	(朝岡 1998・1999・2000)	(新潟市教育委員会 1998・1999、新潟市・新潟市教育委員会 2000)